学術評議員会及び通常総会報告

日　時：令和3年3月8日（月）12時30分～13時40分
場　所：札幌コンベンションセンター（札幌市白石区）とオンライン（リモート）による開催
議決権を有する構成員数：総会（140名），学術評議員会：1,213名
議決権を有する出席者数：通 常 総 会　：出席者数 114名（本人出席 73名*，議決権行使38名，委任状3名）
学術評議員会　：出席者数 757名（本人出席354名（うち役員22名）*，委任状403名）
＊ オンライン参加を含む
議長及び議事録署名人：　通 常 総 会　：議　長 ：谷内　一彦　　署名人：久米 利明，若森　実
学術評議員会　：議　長 ：吉岡　充弘　　署名人：久米 利明，若森　実

定款施行細則第32条に基づき，第94回年会長 吉岡 充弘 氏が学術評議員会の議長，及び定款第19条により，谷内 一彦 理事長が通常総会の議長となり，両会議の成立を確認し，議事録署名人に久米 利明 氏，若森 実 氏の2名を指名した．

付議事項

第1号議案　令和2年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき令和2年度事業報告及び会員の状況が報告された．続いて財務委員長より令和2年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた．

監事より，令和2年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された．

議長より，令和2年度事業報告及び収支決算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第2号議案　令和3年度事業計画及び収支予算の件

理事長より，令和3年度事業計画と収支予算は，昨年１２月１１日の理事会で承認され，既に内閣府に提出されており，１月からは本予算に基づいて執行されていることが報告された．総会資料に基づき令和3年度事業計画が説明され，続いて財務委員長より本事業計画に基づく令和3年度収支予算が説明された．

議長より，令和3年度の事業計画と収支予算について付議され両会議は満場一致でこれを承認した．

第3号議案　諸規則の件

総務委員長より，1)「次世代の会」の規約制定，2)定款施行細則の変更，3)名誉会員推薦規定運用基準及び永年会員推薦規定運用基準の変更，4)新学術評議員選考規定の変更，5)COIマネージメント施行細則及びCOI様式開示例の変更，6)「個人情報の適正な管理・利用等に関する申合せ」の変更，7)「情報公開資料の閲覧に関する内規」の変更が説明された．

議長より，規則の制定ならびに変更が合わせて付議され，両会議は満場一致で承認，可決した．

第4号議案　名誉会員及び永年会員の件

議長より，理事会が推薦した2名の令和3年度新名誉会員への推戴，12名の令和3年度新永年会員への推戴が付議され，両会議は満場一致で承認，可決した．

名誉会員：稲垣 直樹，福永 浩司

永年会員：大浦　清，西尾 眞友，岡原　猛，加藤 正秀，呉 晃一郎，齊田 孝市，佐藤　誠，西村 友男，樋口マキヱ，廣井　純，堀　信顯，村田　栄

第5号議案　第96回年会長の件

議長より，1）第96回年会開催を関東部会とすること，2）理事会は，千葉大学大学院医学研究院の安西 尚彦教授を第96回年会長として選考したことが報告された．安西 尚彦教授を第96回年会長に決定する件につき付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第96回年会は，日本臨床薬理学会と同時期開催を予定しており，2023年3月の開催ではなく，日本臨床薬理学会の学術総会に合わせて2022年12月に開催することが報告され，演題登録期間を含むスケジュール変更への理解と協力が呼びかけられた．

第 6 号議案　新学術評議員の件

議長より，企画教育委員会は新学術評議員候補者として 27 名を選定したことが報告された．令和３年度学術評議員に選任する件について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第 7 号議案　2020 年度 JPS 優秀論文賞の件

編集委員長より 2020 年度 JPS 優秀論文賞が，3 月 7 日の理事会で報告された．

議長より，編集委員会報告を受けて 2020 年度 JPS 優秀論文賞の決定が付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した．

理事会・委員会等活動報告

1)理事会，2)総務委員会，財務委員会，編集委員会，研究推進委員会，広報委員会及び企画教育委員会の 6 常置委員会，3)年会学術企画委員会，江橋賞選考委員会及び国際対応委員会の３特別委員会の各活動状況は，総会資料をもって報告に代えさせていただくことが吉岡年会長より説明された．

第 95 回年会準備報告

宮田 篤郎第 95 回年会長より，第 95 回年会の準備状況が報告された．

令和３年度

公益社団法人　日本薬理学会

学術評議員会・通常総会資料

令和３年３月８日(月) １２時３０分より
オンサイト（札幌コンベンションセンター：札幌市白石区）と
オンライン（リモート）による開催

資料目次

Ⅰ.	令和２年度事業報告	1
Ⅱ.	令和２年度決算報告	6
Ⅲ.	令和３年度事業計画	16
Ⅳ.	令和３年度収支予算	19
Ⅴ.	名誉会員候補者一覧	23
Ⅵ.	永年会員候補者一覧	24
Ⅶ.	部会選出新常置委員会委員一覧	25
Ⅷ.	規則の制定･変更	26
Ⅸ.	理事会等報告	30
Ⅹ.	委員会等報告	33
Ⅺ.	新学術評議員候補者一覧	43
Ⅻ.	薬理学エデュケーター認定者一覧	45

日本薬理学会ホームページ
〈 https://www.pharmacol.or.jp 〉

日本薬理学会ホームページ英語版
〈 https://pharmacol.or.jp/e/ 〉

ＪＰＳホームページ
〈 http://www.journals.elsevier.com/journal-of-pharmacological-sciences 〉

公益社団法人日本薬理学会

令和３年度学術評議員会及び通常総会

１．開催日時：令和３年３月８日（月）12 時 30 分より

２．開催場所：オンサイト（札幌コンベンションセンター）と
オンライン（リモート）による開催

３．付議事項

第１号議案　令和２年度事業報告及び収支決算承認の件

第２号議案　令和３年度事業計画及び収支予算の件

第３号議案　諸規則の件

第４号議案　名誉会員及び永年会員の件

第５号議案　第 96 回年会長の件

第６号議案　新学術評議員の件

代 議 員 一 覧

（任期：2020 年 11 月 10 日から 2022 年に実施される代議員選挙の日まで）

【北 部 会】（20 名）

泉　　剛	岡村　信行	小原祐太郎	久米　利明	佐藤　岳哉	平　　英一
谷村　明彦	東田　千尋	中川　　崇	中川西　修	新田　淳美	日比野　浩
弘瀬　雅教	福永　浩司	守屋　孝洋	山脇　英之	結城　幸一	吉岡　充弘
吉川　雄朗	若森　　実				

【関東部会】（50 名）

相澤　直樹	阿部　和穂	安東賢太郎	池谷　裕二	池田　和隆	池田　弘子
石毛久美子	稲津　正人	上園　保仁	加藤　英明	加藤　総夫	釜井　隆男
亀井　淳三	葛巻　直子	熊井　俊夫	呉林なごみ	輿水　崇鏡	小菅　康弘
小林　恒雄	小林　真之	三枝　　禎	斎藤　顕宜	櫻井　　隆	佐藤　　薫
佐藤　洋美	佐藤　光利	柴田　佳太	下田　和孝	千本松孝明	高木　教夫
高田　龍平	高野　博之	高原　　章	田中　芳夫	田野中浩一	茶木　茂之
辻　まゆみ	辻　　稔	中原　　努	橋本　弘史	平山　友里	廣瀬　謙造
松木　則夫	松本　直樹	三澤日出巳	宮川　和也	村松里衣子	村山　　尚
山口　重樹	山田　充彦				

【近畿部会】（50 名）

青山　峰芳	浅沼　幹人	東　　泰孝	天ヶ瀬紀久子	石澤　啓介	石澤　有紀
稲垣　直樹	井上　敦子	居場　嘉教	衣斐　督和	大野　行弘	大矢　　進
小坂田文隆	笠井　淳司	加藤　伸一	金井　好克	北市　清幸	木村　和哲
倉本　展行	合田　光寛	小山　　豊	座間味義人	四宮　一昭	嶋澤　雅光
白井　康仁	白川　久志	新谷　紀人	高井　真司	高田　和幸	宝田　剛志
田熊　一敞	田中　康一	田中　智之	田中　宏幸	徳山　尚吾	永井　　拓
中川　貴之	中村　一基	西村　有平	西山　　成	橋本　　均	人見　浩史
檜井　栄一	水谷　暢明	森　　秀治	森　　泰生	森岡　徳光	山田　清文
山村　寿男	米山　雅紀				

【西南部会】（20 名）

池田　龍二	今村　武史	岩本　隆宏	甲斐　広文	梶岡　俊一	栗原　　崇
清水　翔吾	清水　孝洋	首藤　隆秀	菅原　英輝	田頭　秀章	竹内　　弘
筒井　正人	寺薗　英之	西　　昭徳	西田　基宏	根本　隆行	東　洋一郎
茂木　正樹	柳田　俊彦				

以上 140 名

Ⅰ．令和２年度事業報告

１．学術集会,講演会等の開催（定款第４条第１号）

(1) 年会の開催（誌上開催）

第 93 回 日本薬理学会年会『Bidirectional talk between bench and bedside　薬理学を一つの舞台に』

年会長：五嶋 良郎（横浜市立大学大学院医学研究科 分子薬理神経生物学 教授）

登録者数：計 1,384 名

（学術評議員 510 名，一般会員 321 名，大学院生 186 名，学部学生 181 名，
非会員 71 名，シンポジスト 76 名，名誉会員・永年会員他 39 名）

演題数：856 演題

（Plenary Lecture 1 演題，特別講演 11 演題，JPS-ASCEPT Lecture 1 演題，
受賞講演 4 演題（江橋節郎賞 1 演題，学術奨励賞 3 演題），
年会企画シンポジウム 2 企画 8 演題，企業企画シンポジウム 2 企画 9 演題，
シンポジウム 34 企画 134 演題，JPS サテライトシンポジウム 1 企画 4 演題，
共催シンポジウム 3 企画 13 演題，緊急シンポジウム 1 企画 4 演題，
モーニングセミナー 3 企画 3 演題，一般演題 572（口演・ポスター），
Late breaking session 27，学生セッション 65.

(2) 地方部会

（春の部会は，いずれか一方の参加登録で両学会に参加できる等，他部会との連携で開催された）

第 142 回日本薬理学会関東部会　部会長：三枝　禎（日本大学・歯）
2020 年 6 月 6 日　オンライン開催
参加者約 200 名，教育講演 1，特別講演 2，一般演題（口演 12 題，ポスター34 題）

第 137 回日本薬理学会近畿部会　部会長：見尾　光庸（就実大学・薬）
2020 年 6 月 20 日（～7 月 4 日）　オンライン開催
参加者 168 名，特別講演 1，一般演題（ポスター45 題）

第 71 回 日本薬理学会北部会　部会長：若森　実（東北大学・院歯）
2020 年 9 月 4 日　仙台国際センター(宮城県仙台市)とオンラインによる Hybrid 開催
参加者 107 名（オンサイト 56 名，オンライン 51 名），一般演題（42 題），
研究助成金受賞演題 4 題，次世代薬理学セミナー

第 143 回日本薬理学会関東部会　部会長：山田　充彦（信州大学・医）
2020 年 10 月 24 日　オンライン開催
参加者 148 名，シンポジウム 10，一般演題（ポスター52 題）

第 138 回日本薬理学会近畿部会　部会長：川畑　篤史（近畿大学・薬）
2020 年 11 月 14 日　オンライン開催
参加者 198 名，シンポジウム 8，一般演題（口演 51 題）

第 73 回日本薬理学会西南部会　部会長：甲斐　広文（熊本大学・院生命科学）
2020 年 11 月 21 日　オンライン開催
参加者約 130 名，国際シンポジウム 3，特別講演 1，
一般演題（口演 22 題，ポスター35 題），看護薬理カンファレンス（遠隔同時開催）

(3) 公開講座の開催

・公開講座（第 93 回年会）　新型コロナウイルス感染症の影響により中止

・公開講座（第 142 回関東部会）　2020 年 6 月 6 日　オンライン開催及び動画配信　世話人：三枝　禎（日本大学・歯）
『脳によい食事』　演者：功刀　浩（帝京大学・医），座長：堀江　俊治（城西国際大学・薬）

・公開講座（第 143 回関東部会）　2020 年 10 月 28 日　オンライン開催及びオンデマンド配信
『心不全の予防・診療・リハビリテーションの最前線』　世話人：山田　充彦（信州大学・医）

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

・次世代薬理学セミナー（第 71 回北部会）2020 年 9 月 4 日　オンサイトとオンラインによる Hybrid 開催
『こころと精神疾患を理解するための次世代アプローチ』(400 名超のオンライン視聴)

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

・看護薬理学カンファレンス in 熊本（第 73 回西南部会開催時オンライン開催), 2020 年 11 月 21 日
大会長：宮田　篤郎（鹿児島大学・院医歯）

・看護薬理学カンファレンス in 東京（オンライン開催), 2020 年 12 月 20 日
大会長：池谷　裕二（東京大学・院薬）

(6) 他学会等との共催学術集会の開催（※第 93 回年会の企画は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

※日本医学会連合加盟学会連携フォーラム
（予定企画)『脳深部刺激（DBS）：機能的脳外科領域における解剖・生理・薬理学連携と若手研究者育成』

※日本実験動物技術者協会共催シンポジウム
（予定企画)『薬理学研究・実習における動物実験技法の継承にむけて』

※日本生理学会共催シンポジウム
（予定企画)『精神疾患メカニズム解明に向けた多角的アプローチ　～細胞からヒトまで俯瞰して～』

※日本臨床疫学会共催シンポジウム
（予定企画)『大規模医療データベースを活用した臨床疫学研究による医療や薬剤の評価』

※日本臨床薬理学会共催シンポジウム
（予定企画)『薬理と臨床薬理とを１つの舞台に』

・日本臨床薬理学会共催シンポジウム　　2020 年 12 月 3 日（第 41 回日本臨床薬理学会学術総会時), 福岡国際会議場
『先端的医薬品開発を目指す薬理学・臨床薬理学研究』
座　　長：吉岡　充弘（北海道大学・院医), 齊藤　源顕（高知大学・医）

・日本臨床薬理学会共催シンポジウム　　2020 年 12 月 3 日（第 41 回日本臨床薬理学会学術総会時), 福岡国際会議場
『データ駆動型薬理学・臨床薬理学研究』
座　　長：安西　尚彦（千葉大学・院医), 茂木　正樹（愛媛大学・院医）

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力

・Joint Meeting of NC-IUPHAR and the British Pharmacological Society を 2020 年 11 月 19 日～21 日に Web で開催した.
・IUPHAR town hall meeting（新ガバナンス体制案についての説明及び意見交換会）を 2020 年 11 月 23 日 22:00～23:00 に Web で開催し, 谷内理事長, 赤羽副理事長が出席した.
参加国：USA, UK, Japan, China, Australia, India, Italy（７ヵ国).

２．学会誌等刊行物の刊行（定款第 4 条第 2 号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号　　142 巻 1～4 号, 143 巻 1～4 号, 144 巻 1～4 号

	掲載頁数	(篇数)
① Review	60 頁	(7)
② Full Paper	593 頁	(72)
③ Short Communication	90 頁	(21)
合計	743 頁	(100)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数） 155 巻 1 号（3,800 部），155 巻 2 号（3,800 部），155 巻 3 号（3,200 部），
155 巻 4 号（3,300 部），155 巻 5 号（3,350 部），155 巻 6 号（3,550 部），

	掲載頁数	（篇数）
① 特集序文	12 頁	(12)
② 特集および総説	262 頁	(50)
③ 実験技術	5 頁	(1)
④ 創薬シリーズ	16 頁	(3)
⑤ 新薬紹介総説	74 頁	(8)
⑥ キーワード解説	0 頁	(0)
⑦ 最近の話題	7 頁	(7)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	5 頁	(5)
⑨ 学会便り/研究室訪問	9 頁	(9)
⑩ アゴラ	12 頁	(6)
⑪ 広告	21 頁	
⑫ 綴込み，目次等上記以外の頁	101 頁	
合計	524 頁	(101)

3．研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 4 条第 3 号）

(1) 第 13 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

尾藤 晴彦（東京大学大学院医学系研究科･教授）

第 14 回日本薬理学会江橋節郎賞決定

西堀 正洋（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・教授）

(2) 第 35 回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

北岡　志保（神戸大学 大学院医学研究科･講師）

『精神・神経変性疾患の病態形成に関与する脳内炎症および疾患モデル細胞を用いた創薬に関する研究』

出山　諭司（金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室・助教）

『レゾルビン類の抗うつ作用の機序解明と創薬応用に向けた薬理学的研究』

中村　達朗（東京大学 大学院農学生命科学研究科･特任助教）

『食物アレルギーにおける PGD_2 の役割解明と治療，診断への応用』

第 36 回日本薬理学会学術奨励賞決定

川畑　伊知郎（東北大学大学院・薬学研究科・特任准教授）

『パーキンソン病の新たな創薬標的の解明とその予防・治療応用研究』

菊田　順一（大阪大学大学院・医学系研究科・准教授）

『生体イメージングによる骨疾患治療薬の in vivo 薬理作用の解明』

野村　洋（北海道大学大学院・薬学研究院・講師）

『記憶・学習を司る神経回路機構および認知機能障害に対する創薬に関する研究』

(3) 第25回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定

A novel JAK inhibitor, peficitinib, demonstrates potent efficacy in a rat adjuvant-induced arthritis model
Misato Ito, Shunji Yamazaki, Kaoru Yamagami, Masako Kuno, Yoshiaki Morita, Kenji Okuma,
Koji Nakamura, Noboru Chida, Masamichi Inami, Takayuki Inoue, Shohei Shirakami, Yasuyuki Higashi
Volume 133, Issue 1, Pages 25-33 (2017)

(4) 第93回年会優秀発表賞

誌上開催のため，選考なし.

(5) 2020年度 JPS 優秀査読者賞

・Naoki Inagaki (Gifu University of Medical Science)
・Atsushi Kasai (Osaka University)
・Akira Nishiyama (Kagawa University)

４．薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

(1) 日本生理学会と連携し，COVID-19に対する各大学の対応と生理学及び薬理学教育への影響に関する緊急合同アンケート調査を行った.

(2) 2020年9月10日から25日まで，第142回関東部会参加者と第137回近畿部会の参加者にオンライン開催についてアンケートを実施した．オンライン開催に対して満足度は比較的高く前向きな意見が多く寄せられた一方で浮かび上がってきた課題もあり，今後検討する.

５．内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

(1) 学術集会の共催および連携　上記1.の(6)参照

(2) 学術集会の協賛･後援　（令和2年総会資料掲載以降令和3年総会の前日まで）

後 援

1)	第34回日本酸化ストレス学会関東支部会		（開催延期）
2)	第25回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会		（中止）
3)	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2020		（2021年8月に順延）
4)	第5回黒潮カンファレンス		（開催延期）
5)	創薬薬理フォーラム第28回シンポジウム	（オンライン開催）	10月9日
6)	日本動物実験代替法学会第33回大会	（オンライン開催）	11月12日,13日
7)	第5回トランスポーター研究会関東部会	（オンライン開催）	11月21日
8)	第30回日本循環薬理学会	（オンライン開催）	11月27日
9)	第30回神経行動薬理若手研究者の集い(オンサイトとオンラインのHybridで開催予定)		令和 3年3月7日

協 賛

1)	第27回ＨＡＢ研究機構学術年会	（オンライン開催）	令和 2年9月3日～5日
2)	CBI学会2020年大会	（オンライン開催）	10月27日～30日

6．会議等の開催状況（令和 2 年総会資料掲載以降令和 3 年総会前日まで）

総　　会	令和 2 年度 通常総会	令和 2 年 3 月 24 日	（決議の省略）
学術評議員会	令和 2 年度	令和 2 年 3 月 5 日	（東京）
理　事　会	令和 2 年度第 2 回	令和 2 年 3 月 5 日	（東京）
	第 3 回	3 月 27 日	（決議の省略）
	第 4 回	5 月 1 日	（Zoom ミーティング）
	第 5 回	8 月 5 日	（　〃　）
	第 6 回	12 月 11 日	（　〃　）
	令和 3 年度第 1 回	令和 3 年 2 月 12 日	（決議の省略）
	第 2 回	3 月 7 日	（札幌＆Zoom）
（拡大）常務理事会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 3 月 15 日	（東京）
	第 2 回	7 月 25 日	（Zoom ミーティング）
	第 3 回	12 月 7 日	（　〃　）
総務委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 5 月 22～27 日	（メール会議）
	第 2 回	6 月 30 日	（Zoom ミーティング）
	第 3 回	11 月 10 日	（　〃　）
財務委員会	財務ワーキング	7 月 29 日	（Zoom ミーティング）
	予算案検討ワーキング	11 月 4 日	（　〃　）
	令和 2 年度 第 1 回	11 月 13 日	（　〃　）
	会　計　監　査	令和 3 年 1 月 8,20,26 日	（東京）
	監　事　監　査	2 月 8 日	（東京＆Zoom）
編集委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 6 月 23 日	（Zoom ミーティング）
研究推進委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 8 月 20 日	（Zoom ミーティング）
	第 2 回	11 月 9 日	（　〃　）
広報委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 5 月 29 日	（Zoom ミーティング）
企画教育委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 5 月 29 日	（Zoom ミーティング）
	第 2 回	7 月 27 日	（　〃　）
	令和 3 年度 第 1 回	令和 3 年 1 月 27 日	（　〃　）
賞等選考委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 10 月 2 日	（Zoom ミーティング）
年会学術企画委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 6 月 11 日	（Zoom ミーティング）
	第 2 回	8 月 24 日	（　〃　）
江橋賞選考委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 10 月 30 日	（Zoom ミーティング）
国際対応委員会	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 7 月 11 日	（Zoom ミーティング）
オンライン学会検討ワーキング		令和 2 年 9 月 1 日	（Zoom ミーティング）

7．会員状況（令和 2 年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 （正会員に含む）	名誉会員	永年会員	正 会 員		総　　数
			学術評議員	一般会員	
１４０	１２７	１０９	1,２４７	2,５７６	4,０５９
＋３	＋７	＋１２	－２２	－９４	－８９

新入会者数：332 名，退会者数：421 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

令和 2 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない．

Ⅱ．令和２年度決算報告

独立監査人の監査報告書

令和３年２月８日

公益社団法人日本薬理学会
　理事長　谷内　一彦　殿

中村公認会計士事務所
公認会計士　　中村　友理香　　㊞

＜財務諸表等監査＞
監査意見
　私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の令和２年１月１日から令和２年 12 月 31 日までの令和２年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－５(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。
　私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠
　私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任
　理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。
　財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。
　監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任
　監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。
　監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。
・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監

査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

＜財産目録に対する意見＞

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の令和 2 年 12 月 31 日現在の令和 2 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監 査 報 告 書

公益社団法人日本薬理学会
理事長　谷内　一彦　殿

令和 3 年 2 月 8 日
公益社団法人日 本 薬 理 学 会
監事　　笹栗　俊之　㊞
監事　　関野　祐子　㊞

私たちは，令和 2 年 1 月 1 日から令和 2 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い，次のとおり報告する．

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について，帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて，財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した．

(2)　業務監査について，理事会及びその他の会議に出席し，理事から業務の報告を聴取し，関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した．

2　監査意見

(1)　貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録及び収支計算書は，会計帳簿の記載金額と一致し，法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める．

(2)　事業報告書の内容は，真実であると認める．

(3)　理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める．

貸借対照表

令和2年12月31日現在

（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　　金	58,943	686,920	△ 627,977
預 貯 金	98,554,237	75,453,961	23,100,276
未収入金	2,789,330	15,555,488	△ 12,766,158
仮 受 金	200,000	0	200,000
前 払 金	2,100,000	4,066,400	△ 1,966,400
貯 蔵 品	3,605	4,355	△ 750
流動資産合計	103,706,115	95,767,124	7,938,991
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	1,632,338	1,632,338	0
振興基金			
学術講演基金	14,117,149	14,117,149	0
刊行基金	15,782,824	15,782,824	0
褒賞基金	12,004,589	12,004,589	0
年会運営資産	10,110,000	970,000	9,140,000
部会運営資産	97,950	0	97,950
公開講座開催資産	0	250,000	△ 250,000
国際情報発信強化資産	1,350,450	2,300,000	△ 949,550
百周年記念積立資産	2,000,000	1,000,000	1,000,000
特定資産合計	107,095,300	98,056,900	9,038,400
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	3,407,394	5,063,954	△ 1,656,560
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
その他固定資産合計	4,979,396	6,635,956	△ 1,656,560
固定資産合計	112,074,696	104,692,856	7,381,840
資 産 合 計	215,780,811	200,459,980	15,320,831
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
前 受 金	6,447,000	8,588,000	△ 2,141,000
未 払 金	5,268,625	8,295,952	△ 3,027,327
預 り 金	224,501	364,583	△ 140,082
流動負債合計	11,940,126	17,248,535	△ 5,308,409
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	11,940,126	17,248,535	△ 5,308,409
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取補助金	1,350,450	2,300,000	△ 949,550
受取寄付金	10,207,950	1,220,000	8,987,950
指定正味財産合計	11,558,400	3,520,000	8,038,400
(うち特定資産への充当額)	(11,558,400)	(3,520,000)	(8,038,400)
2. 一般正味財産	192,282,285	179,691,445	12,590,840
(うち特定資産への充当額)	(95,536,900)	(94,536,900)	(1,000,000)
正味財産合計	203,840,685	183,211,445	20,629,240
負債及び正味財産合計	215,780,811	200,459,980	15,320,831

正味財産増減計算書

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで　　(単位:円)

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
①　特定資産運用益	3,642	18,234	△ 14,592
薬理学基金受取利息	600	12,600	△ 12,000
国際基金･振興基金受取利息	3,042	5,634	△ 2,592
②　受取会費	43,218,000	44,941,000	△ 1,723,000
一般会員会費	16,748,000	17,733,000	△ 985,000
学術評議員会費	18,310,000	18,148,000	162,000
賛助会員会費	8,160,000	9,060,000	△ 900,000
③　事業収益	25,941,723	68,799,038	△ 42,857,315
学術集会費収益	17,999,300	44,978,940	△ 26,979,640
薬理学基金	492,640	692,600	△ 199,960
論文掲載料収益	5,863,400	17,672,960	△ 11,809,560
論文別刷料収益	605,623	1,385,362	△ 779,739
広告掲載料収益	980,760	3,633,800	△ 2,653,040
予稿集売上等収益	0	435,376	△ 435,376
④　薬理学エデュケーター申請収益	1,920,000	6,060,000	△ 4,140,000
申請料収益	1,920,000	6,060,000	△ 4,140,000
⑤　受取補助金等	8,194,853	7,763,444	431,409
学術集会補助金	745,303	1,020,000	△ 274,697
指定正味財産からの振替額	7,449,550	6,743,444	706,106
⑥　受取寄付金	5,812,050	13,875,000	△ 8,062,950
学術集会賛助金	4,320,000	13,875,000	△ 9,555,000
指定正味財産からの振替額	1,492,050	0	1,492,050
⑥　雑　収　益	78,568	444,631	△ 366,063
受取利息	1,638	449	1,189
雑　収　益	76,930	444,182	△ 367,252
経常収益計	85,168,836	141,901,347	△ 56,732,511
(2)経常費用			
①　事　業　費	61,670,688	128,001,563	△ 66,330,875
給与手当	0	1,985,290	△ 1,985,290
法定福利費	0	371,562	△ 371,562
事務所借料	1,463,616	1,549,149	△ 85,533
会　場　費	5,367,697	28,106,174	△ 22,738,477
旅費･通信交通費	1,785,868	4,045,182	△ 2,259,314
印　刷　費	5,345,668	6,495,605	△ 1,149,937
会　議　費	1,063,397	4,358,989	△ 3,295,592
謝金･その他	5,555,624	8,773,230	△ 3,217,606
懇親会費	0	6,427,073	△ 6,427,073
編集･刊行費	11,711,525	32,851,968	△ 21,140,443
国際情報発信強化費	7,449,550	6,743,444	706,106
学術事業協力費	328,400	552,920	△ 224,520
副　　賞	950,490	973,048	△ 22,558
消耗品費	11,000	614,105	△ 603,105
業務委託費	19,049,293	22,681,598	△ 3,632,305
租税公課	558,400	487,900	70,500
減価償却費	1,030,160	984,326	45,834

科　目	当年度	前年度	増　減
② 管 理 費	10,907,308	13,065,545	△ 2,158,237
給与手当	0	711,935	△ 711,935
法定福利費	0	140,939	△ 140,939
事務所借料	627,264	516,387	110,877
臨時雇賃金	113,029	0	113,029
旅費･通信交通費	1,726,299	2,389,905	△ 663,606
印 刷 費	190,520	117,558	72,962
会 議 費	295,491	376,021	△ 80,530
リース料	222,168	191,808	30,360
消耗品費	1,094,496	1,059,648	34,848
支払手数料	1,834,893	1,847,886	△ 12,993
慶弔費	366,190	322,906	43,284
業務委託費	3,644,335	4,492,451	△ 848,116
租税公課	4,300	24,200	△ 19,900
減価償却費	626,400	626,400	0
選 挙 費	35,462	0	35,462
雑　費	126,461	247,501	△ 121,040
経常費用計	72,577,996	141,067,108	△ 68,489,112
評価損益等調整前当期経常増減額	12,590,840	834,239	11,756,601
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	12,590,840	834,239	11,756,601
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	12,590,840	834,239	11,756,601
一般正味財産期首残高	179,691,445	178,857,206	834,239
一般正味財産期末残高	192,282,285	179,691,445	12,590,840
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金	6,500,000	7,300,000	△ 800,000
受取寄付金	10,480,000	1,220,000	9,260,000
一般正味財産への振替額	△ 8,941,600	△ 6,743,444	△ 2,198,156
当期指定正味財産増減額	8,038,400	1,776,556	6,261,844
指定正味財産期首残高	3,520,000	1,743,444	1,776,556
指定正味財産期末残高	11,558,400	3,520,000	8,038,400
Ⅲ 正味財産期末残高	203,840,685	183,211,445	20,629,240

正味財産増減計算書内訳表

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共 通	小 計	認 定			
Ⅰ 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
特定資産運用益						3,342		300		3,642
薬理学基金受取利息					300	300		300		600
国際基金・振興基金受取利息					3,042	3,042				3,042
受取会費						21,609,000		21,609,000		43,218,000
一般会員会費					8,374,000	8,374,000		8,374,000		16,748,000
学術評議員会費					9,155,000	9,155,000		9,155,000		18,310,000
賛助会員会費					4,080,000	4,080,000		4,080,000		8,160,000
薬理学基金						26,087,723			△ 146,000	25,941,723
学術集会費収益	18,109,300					18,109,300			△ 110,000	17,999,300
購読料収益		492,640				492,640				492,640
論文掲載料収益	2,859,000	3,040,400				5,899,400			△ 36,000	5,863,400
論文別刷料収益		605,623				605,623				605,623
広告掲載料収益		980,760				980,760				980,760
薬理学エデュケーター申請収益							1,920,000			1,920,000
申請料収益							1,920,000			1,920,000
受取補助金等						8,194,853				8,194,853
学術集会補助金	745,303					745,303				745,303
指定正味財産からの振替額		7,449,550				7,449,550				7,449,550
受取寄付金						5,822,050		0	△ 10,000	5,812,050
学術集会賛助金	4,330,000					4,330,000			△ 10,000	4,320,000
指定正味財産からの振替額	1,492,050					1,492,050				1,492,050
雑収益						160		78,408	0	78,568
受取利息	160					160		1,478		1,638
雑収益						0		76,930		76,930
経常収益計	27,535,813	12,568,973	0	0	21,612,342	61,717,128	1,920,000	21,687,708	△ 156,000	85,168,836
(2)経常費用										
事業費										
事務所借料	836,352	209,088	209,088	104,544		1,359,072	104,544			1,463,616
会場費	5,367,697					5,367,697				5,367,697
旅費・通信交通費	1,699,772	15,256	49,840			1,764,868	21,000			1,785,868
印刷費	5,345,668					5,345,668				5,345,668
会議費	1,060,387		3,010			1,063,397				1,063,397
謝金・その他	5,089,706		556,850			5,646,556	5,068		△ 96,000	5,555,624
編集・刊行費		11,711,525				11,711,525				11,711,525
国際情報発信強化費		7,449,550				7,449,550				7,449,550
学術事業協力費				328,400		328,400				328,400
副 賞			950,490			950,490				950,490
消耗品費		11,000				11,000				11,000
業務委託費	15,761,492	1,742,301	620,180	305,140		18,429,113	620,180			19,049,293
租税公課	312,700	178,690				491,390	67,010			558,400
減価償却費	920,160					920,160	110,000			1,030,160
事業費計	36,393,934	21,317,410	2,389,458	738,084	0	60,838,886	927,802	0	△ 96,000	61,670,688
管理費										
事務所借料								627,264		627,264
臨時雇賃金								113,029		113,029
旅費・通信交通費								1,726,299		1,726,299
印刷費								190,520		190,520
会議費								295,491		295,491
リース料								222,168		222,168
消耗品費								1,094,496		1,094,496
支払手数料								1,834,893		1,834,893
慶弔費								426,190	△ 60,000	366,190
業務委託費								3,644,335		3,644,335
租税公課								4,300		4,300
減価償却費								626,400		626,400
選挙費								35,462		35,462
雑 費								126,461		126,461
管理費計								10,967,308	△ 60,000	10,907,308
経常費用計	36,393,934	21,317,410	2,389,458	738,084	0	60,838,886	927,802	10,967,308	△ 156,000	72,577,996
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,858,121	△ 8,748,437	△ 2,389,458	△ 738,084	21,612,342	878,242	992,198	10,720,400	0	12,590,840
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,858,121	△ 8,748,437	△ 2,389,458	△ 738,084	21,612,342	878,242	992,198	10,720,400	0	12,590,840
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 8,858,121	△ 8,748,437	△ 2,389,458	△ 738,084	21,612,342	878,242	992,198	10,720,400	0	12,590,840
他会計振替額	0	0	0	0	414,052	414,052	△ 414,052	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,858,121	△ 8,748,437	△ 2,389,458	△ 738,084	22,026,394	1,292,294	578,146	10,720,400	0	12,590,840
一般正味財産期首残高						75,495,392	2,552,684	101,643,369	0	179,691,445
一般正味財産期末残高						76,787,686	3,130,830	112,363,769	0	192,282,285
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000
受取寄付金	10,480,000		0	0	0	10,480,000	0	0	0	10,480,000
一般正味財産への振替額	△ 1,492,050	△ 7,449,550	0	0	0	△ 8,941,600	0	0	0	△ 8,941,600
当期指定正味財産増減額	8,987,950	△ 949,550	0	0	0	8,038,400	0	0	0	8,038,400
指定正味財産期首残高	1,220,000	2,300,000	0	0	0	3,520,000	0	0	0	3,520,000
指定正味財産期末残高	10,207,950	1,350,450	0	0	0	11,558,400	0	0	0	11,558,400
Ⅲ 正味財産期末残高						88,346,086	3,130,830	112,363,769	0	203,840,685

財務諸表に対する注記

1.重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している.

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法による.

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込方式によっている.

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである.

特定資産 (単位:円)

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	50,000,000	0	0	50,000,000
国際基金	1,632,338	0	0	1,632,338
薬 振興基金				
学術講演基金	14,117,149	0	0	14,117,149
刊行基金	15,782,824	0	0	15,782,824
褒賞基金	12,004,589	0	0	12,004,589
年会運営資産	970,000	10,110,000	970,000	10,110,000
部会運営資産	0	97,950	0	97,950
公開講座開催資産	250,000		250,000	0
国際情報発信強化資産	2,300,000	6,500,000	7,449,550	1,350,450
百周年記念積立資産	1,000,000	1,000,000	0	2,000,000
合　　計	98,056,900	17,707,950	8,669,550	107,095,300

3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである.

特定資産 (単位:円)

科　　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
薬理学基金	50,000,000	－	(50,000,000)	－
国際基金	1,632,338	－	(1,632,338)	－
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	－	(14,117,149)	－
刊行基金	15,782,824	－	(15,782,824)	－
褒賞基金	12,004,589	－	(12,004,589)	－
年会運営資産	10,110,000	(10,110,000)		－
部会運営資産	97,950	(97,950)		－
国際情報発信強化資産	1,350,450	(1,350,450)	－	－
百周年記念積立資産	2,000,000		(2,000,000)	
合　　計	107,095,300	(11,558,400)	(95,536,900)	(　－　)

4.固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高は，次のとおりである.

(単位:円)

種類及び銘柄	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウエア	8,282,800	4,875,406	3,407,394
合　　計	8,282,800	4,875,406	3,407,394

5.補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高は，次のとおりである.

（単位:円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	2,300,000	6,500,000	7,449,550	1,350,450	指定正味財産
第93回日本薬理学会年会研究者招聘助成金	（公財）内藤記念科学振興財団	0	120,000	120,000	0	
第93回日本薬理学会年会研究者招聘補助金	（公財）東京生化学研究会	0	55,000	55,000	0	
第93回日本薬理学会年会研究者招聘助成金	（公財）持田記念医学薬学振興財団	0	210,303	210,303	0	
第93回日本薬理学会年会補助金	（一社）日本医学会連合	0	300,000	300,000	0	
部会開催補助金（第142回関東部会）	公益財団信州医学振興会	0	60,000	60,000	0	
合　　計		2,300,000	7,245,303	8,194,853	1,350,450	

6.指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は，次のとおりである.

（単位:円）

内　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除（受取補助金）	7,449,550
目的達成による指定解除（受取寄付金）	1,492,050

7.資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき，オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが，当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく，当面事務局を移転する予定もないことから，資産除却債務を合理的に見積もることができない．そのため，当該債務に見合う資産除却債務を計上していない.

附 属 明 細 書

1．基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記２．に記載のとおりである.

2．引当金の明細

該当なし.

財 産 目 録

令和2年12月31日現在

（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
（流動資産）	現　　金	手元保管	運転資金として	58,943
	預　貯　金	普通預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	51,950,703
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	12,637,436
		定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	3,340,000
		定期預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	10,000,000
		ゆうちょ銀行定期貯金	運転資金として	792,050
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	3,907,340
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	15,926,708
			＜現金・預貯金計＞	**98,613,180**
	未 収 入 金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	725,000
		学術評議員会費(90名分)	同　上	1,350,000
薬理学基金		購 読 料	刊行事業の未収分である	481,500
		論文別刷料	同　上	217,690
		ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ売上金	既刊雑誌の売上未収分である	11,140
		部会学術集会参加登録費	学術集会参加費の未決済分である	4,000
			＜未収入金計＞	**2,789,330**
	仮　受　金	学術集会寄付金	学術集会資金の事務局未達分	200,000
			＜仮受金計＞	**200,000**
	前　払　金	第94回年会	年会開催事業への学会交付金である	2,100,000
			＜前払金計＞	**2,100,000**
	貯　蔵　品	既刊誌(2019, 2020年)	既刊雑誌の在庫数である	3,605
			＜貯蔵品計＞	**3,605**
流 動 資 産 合 計				**103,706,115**
（固定資産）	薬理学基金	定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している(うち公益目的保有財産50%)	30,000,000
特 定 資 産		ゆうちょ銀行通常貯金		20,000,000
			＜薬理学基金計＞	**50,000,000**
	国際基金	ゆうちょ銀行通常貯金	海外の学会との連携事業の原資である(公益目的保有財産)	1,632,338
			＜国際基金計＞	**1,632,338**
	振興基金			
	学術講演基金	ゆうちょ銀行通常貯金	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座，及び次世代薬理学セミナー開催事業等の原資である(公益目的保有財産)	14,117,149
			＜学術講演基金計＞	**14,117,149**
	刊行基金	ゆうちょ銀行通常貯金	刊行事業，薬理学に関する研究及び調査事業の原資である(公益目的保有財産)	15,782,824
			＜刊行基金計＞	**15,782,824**
	褒賞基金	ゆうちょ銀行通常貯金	研究業績を表彰する事業の原資である(公益目的保有財産)	12,004,589
			＜褒賞基金計＞	**12,004,589**
	年会運営資産	ゆうちょ銀行定期貯金	年会の寄付金である	10,110,000
			＜年会運営資産＞	**10,110,000**
	部会運営資産	ゆうちょ銀行定期貯金	部会の寄付金である	97,950
			＜部会運営資産＞	**97,950**
	国際情報発信強化資産	ゆうちょ銀行通常貯金	科研費の補助金である	1,350,450
			＜国際情報発信強化資産計＞	**1,350,450**
	百周年記念積立資産	ゆうちょ銀行定期貯金	百周年記念事業の積立金である(特定費用準備資金)	2,000,000
			＜百周年記念積立資産＞	**2,000,000**
			＜特定資産合計＞	**107,095,300**

その他固定資産	ソフトウェア	会員管理システム	公益目的事業及び管理目的に使用している	3,407,394
			うち公益目的事業に使用	2,147,760
			うちその他の事業に使用	375,834
			うち管理目的に使用	883,800
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり，公益目的事業に使用している	2
	保証金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
			うち公益目的保有財産25%	393,000
			うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000
			＜その他固定資産計＞	**4,979,396**
固定資産合計				**112,074,696**
資産合計				**215,780,811**
(流動負債)	前受金	2021年一般会員会費(10名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度の会費である.	69,000
		2021年学術評議員会費(4名分)		40,000
		参加登録費	第94回年会の参加登録費である	6,338,000
			＜前受金計＞	**6,447,000**
	未払金	給与等	臨時雇用者の賃金等である	113,029
		代理店委託費	学会誌の代理店委託費である	2,391,203
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費及び会計監査費用等である	2,168,600
		消耗品費等	刊行事業の消耗品費等である	37,393
		消費税	当年度未払消費税である	558,400
			＜未払金計＞	**5,268,625**
	預り金	学術集会謝金源泉所得税	学術集会開催事業の謝金等の源泉所得税である	209,501
		その他預り金	その他の預り金である	15,000
			＜預り金計＞	**224,501**
流動負債合計				**11,940,126**
(固定負債)			**＜固定負債合計＞**	**0**
固定負債合計				**0**
負債合計				**11,940,126**
正味財産				**203,840,685**

Ⅲ. 令和 3 年度事業計画

日本薬理学会は，薬理学を基礎から臨床応用までを一体としてカバーする学問領域として捉え，これまで果たしてきた役割を確認し，21 世紀における薬理学の identity を確立するために，会員の皆様と一緒に学会活動を積極的に続けています.

具体的に以下の項目を積極的に推進していきます。

1）創薬に携わっている企業の研究者とアカデミアの研究者のインターフェースの役割を果たしていますが，さらに「オープンイノベーション活動」を発展させてまいります.

2）薬理学における高度な教育技術を持った会員であることを日本薬理学会が保証する「薬理学エデュケーター認定制度」により，薬の適正使用と啓蒙において優れた教育能力を備えた人材を社会に送り出してまいります.

3）年会・部会などの学術集会に関して，様々な状況に対応できるように WEB 配信システムの基盤構築を検討してまいります. そのために年会長，部会長，組織委員会，年会学術企画委員会，薬理学会事務室の連携強化を図り，効率的に学術集会等を運営します.

4）英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」がオープンジャーナルとして極めて高い水準に達したことからなお一層の努力を続け，世界中に情報を発信してまいります.

5）和文誌「日本薬理学雑誌」が日本国内の創薬科学の総説誌として高い評価を得ておりますことから，日本中に情報を発信してまいります.

6）今後の中期的目標として，日本薬理学会創立 100 周年を迎える 2027 年に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります.

7）日本国内外の学会との連携を強めていきます. アジアの中で中心的な役割を担う存在であることを認識して世界各国の薬理学会，そして IUPHAR（International Union of Basic and Clinical Pharmacology）との国際的連携を発展させてまいります.

本会の更なる発展を目指すため，会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします.

理事長　谷内　一彦

1　薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業 1）

(1) 年会の開催

・第 94 回 日本薬理学会年会　　年会長：吉岡　充弘（北海道大学･院医）
2021 年 3 月 8 日～10 日　札幌コンベンションセンター及びリモート開催

(2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する.

・第 144 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：石毛久美子（日本大学･薬）
2021 年 6 月 5 日　日本大学薬学部

・第 139 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：山田　清文（名古屋大学･院医）
2021 年 6 月 26 日　ウインクあいち

・第 72 回 日本薬理学会北部会　　部会長：丹野　孝一（東北大医科薬科大学･薬）
2021 年 9 月 23 日　東北医科薬科大学小松島キャンパス

・第 145 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：石川　智久（静岡県立大学･薬）
2021 年 10 月 9 日　静岡県立大学（予定）

・第 140 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：吉栖　正典（奈良県立医科大学･医）
2021 年 11 月 13 日　奈良県コンベンションセンター

・第 74 回 日本薬理学会西南部会　　部会長：西　　昭徳（久留米大学･医）
2021 年 11 月 20 日　久留米シティプラザ

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会,地方部会と連動して 3 回の市民公開講座を開催する予定である.

・公開講座（第 94 回年会） 2021 年 3 月 7 日　北海道大学医学部百周年記念館

テーマ：「臨床医のための薬理学シンポジウムー気分障害治療薬ワークショップ」

・部会開催に合わせて 2 回の公開講座開催を予定している．

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため，意欲と能力のある若手を育成し，学会活動への積極的な参画を促すため，若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する．2020 年度から Web 配信により全会員が無料で視聴できるようになった．2021 年は 2 回の開催を予定している．

(5) 薬理学カンファレンス 2021 の開催

第 94 回年会前日（2021 年 3 月 7 日）他，地方部会に合わせて開催予定.全国から参加者を募るため，オンライン配信を基本とする．

2　薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし，学会誌等を刊行する事業（公益目的事業 2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する．

・2021 年刊行予定：145 巻 1～4 号，146 巻 1～4 号，147 巻 1～4 号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

・2021 年刊行予定：156 巻 1～6 号　計 6 冊

(3) 「医学と医療における日本の薬理学の貢献（仮題）」パンフレットの作成.

3　優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために，各賞を設置し，研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業 3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため，江橋節郎賞を創設し，薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している．第 14 回選考より，選考対象領域を分け，年毎に募集領域を公告し，推薦を受け付ける．

・第 14 回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は，第 94 回年会会期中の 2021 年 3 月 9 日に行われる予定.

西堀　正洋（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）

『炎症病態をターゲットとしたトランスレーショナルリサーチと創薬』

・第 15 回江橋節郎賞は 5 月末日までに募集を公告し，推薦の締切は 8 月末日，江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する．

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する．

・第 36 回学術奨励賞受賞者 3 名の受賞講演は，第 94 回年会会期中の 2021 年 3 月 8 日に行われる予定

川畑伊知郎 東北大学大学院・薬学研究科・特任准教授

『パーキンソン病の新たな創薬標的の解明とその予防･治療応用研究』

菊田　順一（大阪大学大学院･医学系研究科･准教授）

『生体イメージングによる骨疾患治療薬の in vivo 薬理作用の解明』

野村　洋（北海道大学大学院･薬学研究院･講師）

『記憶･学習を司る神経回路機構および認知機能障害に対する創薬に関する研究』

・第 37 回学術奨励賞は 5 月末日までに募集を公告し，推薦の締切は 8 月末日，賞等選考委員会の選考を経た 3 件以内の候補者について理事会が決定する．

(3) JPS 優秀論文賞

過去 3 年間に JPS に掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約 10 編の中から特に優れたものを選出し，その著者に JPS 優秀論文賞を授与する．

・第 25 回 JPS 優秀論文賞受賞者には賞状と副賞を授与する．

・第 26 回 JPS 優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3 編以内を決定する．

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し，学問的情報発信の場としての役割を高めるために第 94 回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して，10～20 件の年会優秀発表賞を授与する．

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で 5 名以内に JPS 優秀査読者賞を授与する．

4　薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした，内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業 4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は，日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する．

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために，定例会議に出席する．

(3) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として，脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する．

(4) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する．

・日本毒性学会共催シンポジウム　2021 年 3 月 8 日（第 94 回年会会期中）
　薬理学・毒性学視点からアプローチするエクスポソーム研究

・看護薬理学カンファレンス　2021 年 3 月 7 日（第 94 回年会前日），Web 開催予定．

(5) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する．

・JPS-ASCEPT Lecture を 2021 年 3 月 9 日（第 94 回年会会期中）に開催し，同 11 月にシドニーで開催される ASCEPT 年会に，講師を派遣する．

・第 8 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting を 2021 年 3 月 10 日（第 94 回年会会期中）に開催予定．

・第 23 回日韓薬理学合同セミナー（韓国・大邱市）運営に参加予定．

5　薬理学エデュケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し，薬理学の知識の普及及び研究水準向上への貢献を目的として，薬理学エデュケーター認定事業を行っている．経過措置による申請期間が終了し，2021 年度からは通常の申請を受け付ける．

6　その他

1　会　員

・2020 年度末の会員数は 2019 年度末の会員数 4,148 名から，若干，減少し，4,059 名となった．

2　業務執行体制の整備と強化

・代表理事，業務執行理事，常置委員会委員長，年会長，次世代の会代表による拡大常務理事会を開催し，様々な課題に取り組み，理事会の業務執行に協力する．

3　社会に向けて

・公開講座を開催し，科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する．

・倫理委員会規定を制定し，科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる．

4　事務局体制について

・事務局は外部委託により運営されているが，2021 年 3 月で試行期間の 2 年が終了する．以降については本会の事業が安定的に継続できるような事務局体制の構築に努める．

Ⅳ．令和3年度収支予算

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

（単位:円）

	2021年度予算額	2020年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ．一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1) 経常収益				
①　特定資産運用益	(10,000)	(40,000)	(△ 30,000)	
基金運用益	10,000	40,000	△ 30,000	
②　受取会費	(42,910,000)	(44,910,000)	(△ 2,000,000)	
1　一般会員会費	16,500,000	18,600,000	△ 2,100,000	
2　学術評議員会費	17,500,000	18,000,000	△ 500,000	
3　賛助会員会費	8,910,000	8,310,000	600,000	
③　事業収益	(49,839,000)	(66,715,000)	(△ 16,876,000)	
1　学術集会費収益	(41,299,000)	(56,745,000)	(△ 15,446,000)	
参加登録費	18,810,000	22,335,000	△ 3,525,000	
器械展示料･予稿集広告料	6,769,000	16,890,000	△ 10,121,000	
懇親会費	2,300,000	5,520,000	△ 3,220,000	
ランチョンセミナー	13,420,000	12,000,000	1,420,000	
2　購読料	(510,000)	(500,000)	(10,000)	
3　論文掲載料	(6,030,000)	(6,470,000)	(△ 440,000)	
4　論文別刷料	(700,000)	(1,000,000)	(△ 300,000)	
5　広告掲載料	(1,300,000)	(2,000,000)	(△ 700,000)	
④　受取補助金等	(14,519,824)	(11,345,771)	(3,174,053)	
1　指定正味財産からの振替額	7,569,824	7,395,771	174,053	
2　学術集会補助金	6,950,000	3,950,000	3,000,000	
⑤　受取寄付金	(17,250,000)	(14,640,000)	(2,610,000)	
1　指定正味財産からの振替額	100,000	650,000	△ 550,000	
2　学術集会賛助金	17,150,000	13,990,000	3,160,000	
⑥　雑収益	(1,501,400)	(1,503,000)	(△ 1,600)	
受取利息等	1,501,400	1,503,000	△ 1,600	
経常収益計	**126,030,224**	**139,153,771**	**△ 13,123,547**	
(2) 経常費用				
①　事業費	(120,328,614)	(125,438,211)	(△ 5,109,597)	
給料手当	0	0	0	
法定福利費	0	0	0	
事務所借料	1,463,880	1,463,880	0	
会場費	36,597,220	42,194,000	△ 5,596,780	
旅費･通信交通費	6,231,000	6,910,000	△ 679,000	
印刷費	10,865,000	9,060,000	1,805,000	
会議費	3,687,650	3,420,000	267,650	
謝金･その他	14,584,730	14,340,000	244,730	
懇親会費	2,300,000	5,320,000	△ 3,020,000	
編集刊行費	12,000,000	11,000,000	1,000,000	
国際情報発信強化費	7,569,824	7,145,771	424,053	
学術事業協力費	450,000	550,000	△ 100,000	
副　賞	1,800,000	1,200,000	600,000	
消耗品費	350,000	400,000	△ 50,000	
業務委託費	20,499,150	20,614,400	△ 115,250	
減価償却費	1,030,160	920,160	110,000	
租税公課	400,000	400,000	0	
雑　費	500,000	500,000	0	

（単位:円）

	2021年度予算額	2020年度予算額	増 減	備 考
② 管理費	(14,030,568)	(15,450,808)	(△ 1,420,240)	
給料手当	0	0	0	
法定福利費	0	0	0	
事務所借料	627,000	627,000	0	
臨時雇賃金	500,000	500,000	0	
旅費･通信交通費	2,500,000	3,500,000	△ 1,000,000	
印刷費	300,000	300,000	0	
会議費	700,000	700,000	0	
リース料	222,168	191,808	30,360	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	1,600,000	1,600,000	0	
慶弔費	500,000	500,000	0	
業務委託費	5,280,000	5,185,600	94,400	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	581,400	626,400	△ 45,000	
選挙費	0	500,000	△ 500,000	
雑 費	200,000	200,000	0	
経常費用計	**134,359,182**	**140,889,019**	**△ 6,529,837**	
評価損益等調整前当期経常増減額	**△ 8,328,958**	**△ 1,735,248**	**△ 6,593,710**	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 8,328,958	△ 1,735,248	△ 6,593,710	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 8,328,958	△ 1,735,248	△ 6,593,710	
一般正味財産期首残高	145,515,863	147,251,111	△ 1,735,248	
一般正味財産期末残高	**137,186,905**	**145,515,863**	**△ 8,328,958**	
Ⅱ 指定正味財産増減の部 ① 受取補助金			0	
受取補助金 ② 受取寄付金	6,500,000	7,000,000	△ 500,000	
受取寄付金 ③ 一般正味財産への振替額	100,000	0	100,000	
一般正味財産への振替額	△ 7,669,824	△ 8,045,771	375,947	
当期指定正味財産増減額	△ 1,069,824	△ 1,045,771	△ 24,053	
指定正味財産期首残高	2,569,824	3,615,595	△ 1,045,771	
指定正味財産期末残高	**1,500,000**	**2,569,824**	**△ 1,069,824**	
Ⅲ 正味財産期末残高	**138,686,905**	**148,085,687**	**△ 9,398,782**	

令和3年度収支予算書

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

（単位：円）

	公益目的事業会計（内訳表）						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合　計
	公1 学術集会等開催	公2 刊　行	公3 褒　賞	公4 連　携	共通	小計	他1 エデュケーター			
Ⅰ一般正味財産増減の部										
1．経常増減の部										
(1)経常収益										
①　特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**5,000**	**5,000**		**5,000**		**10,000**
基金受取利息					5,000	5,000		5,000		10,000
②　受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**21,455,000**	**21,455,000**		**21,455,000**		**42,910,000**
1　一般会員会費					8,250,000	8,250,000		8,250,000		16,500,000
2　学術評議員会費					8,750,000	8,750,000		8,750,000		17,500,000
3　賛助会員会費					4,455,000	4,455,000		4,455,000		8,910,000
③　事業収益	**44,429,000**	**5,410,000**	**0**	**0**	**0**	**49,839,000**		**0**		**49,839,000**
1　学術集会費収益	41,299,000	0	0		0	41,299,000		0		41,299,000
参加登録費	18,810,000					18,810,000		0		18,810,000
器械展示料	6,769,000					6,769,000		0		6,769,000
予稿集広告料										0
懇親会費	2,300,000					2,300,000		0		2,300,000
ランチョンセミナー	13,420,000					13,420,000		0		13,420,000
2　購読料	0	510,000	0	0	0	510,000		0		510,000
購読料		510,000				510,000		0		510,000
3　論文掲載料	3,130,000	2,900,000	0	0	0	6,030,000		0		6,030,000
和文誌掲載料		2,800,000				2,800,000		0		2,800,000
英文誌掲載料		100,000				100,000		0		100,000
演題登録料	3,130,000					3,130,000		0		3,130,000
4　論文別刷料	0	700,000	0	0	0	700,000		0		700,000
別刷料		400,000				400,000		0		400,000
著作権等使用料		300,000				300,000		0		300,000
5　広告掲載料	0	1,300,000	0	0	0	1,300,000		0		1,300,000
広告掲載料		1,300,000				1,300,000		0		1,300,000
④　受取補助金等	**6,950,000**	**7,569,824**	**0**	**0**	**0**	**14,519,824**		**0**		**14,519,824**
1 指定正味財産からの振替額		7,569,824				7,569,824		0		7,569,824
2 学術集会補助金	6,950,000					6,950,000		0		6,950,000
⑤　受取寄付金	**17,250,000**			**0**		**17,250,000**		**0**		**17,250,000**
1 指定正味財産からの振替額	100,000					100,000		0		100,000
学術集会賛助金	17,150,000					17,150,000		0		17,150,000
⑥　雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**700**	**700**	**1,500,000**	**700**		**1,501,400**
受取利息等					700	700	1,500,000	700		1,501,400
経常収益計	**68,629,000**	**12,979,824**	**0**	**0**	**21,460,700**	**103,069,524**	**1,500,000**	**21,460,700**		**126,030,224**
(2)経常費用						0				
①　事業費	**88,751,596**	**22,794,724**	**3,753,750**	**2,718,544**	**2,000,000**	**119,518,614**	**310,000**	**0**	**0**	**120,328,614**
1　事務所借料	941,336	209,000	209,000	104,544		1,463,880				1,463,880
2　会場費	36,597,220					36,597,220				36,597,220
3　旅費・通信交通費	3,781,000	800,000	500,000	950,000		6,031,000	200,000			6,231,000
4　印刷費	10,865,000					10,865,000				10,865,000
5　会議費	3,237,650	200,000	150,000	100,000		3,687,650				3,687,650
6　謝金・その他	11,177,880		556,850	850,000	2,000,000	14,584,730				14,584,730
7　懇親会費	2,300,000					2,300,000				2,300,000
8　編集・刊行費		12,000,000				12,000,000				12,000,000
9　国際情報発信強化費		7,569,824				7,569,824				7,569,824

	公益目的事業会計(内訳表)						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共通	小計	他1 エデュケーター			
10 学術事業協力費				450,000		450,000				450,000
11 副 賞			1,800,000			1,800,000				1,800,000
12 消耗品費		350,000				350,000				350,000
13 業務委託費	18,031,350	1,665,900	537,900	264,000		20,499,150				20,499,150
14 減価償却費	920,160					920,160	110,000			1,030,160
15 租税公課	400,000					400,000				400,000
16 雑 費	500,000					500,000				500,000
② 管理費								**14,030,568**	**0**	**14,030,568**
1 事務所借料								627,000		627,000
2 臨時雇賃金								500,000		500,000
3 旅費・通信交通費								2,500,000		2,500,000
4 印刷費								300,000		300,000
5 会議費								700,000		700,000
6 リース料								222,168		222,168
7 消耗品費								1,000,000		1,000,000
8 支払手数料								1,600,000		1,600,000
9 慶弔費								500,000		500,000
10 業務委託費								5,280,000		5,280,000
11 租税公課								20,000		20,000
12 減価償却費								581,400		581,400
13 選挙費								0		0
14 雑 費								200,000		200,000
経常費用計	**88,751,596**	**22,794,724**	**3,753,750**	**2,718,544**	**2,000,000**	**120,018,614**	**310,000**	**14,030,568**	**0**	**134,359,182**
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 20,122,596	△ 9,814,900	△ 3,753,750	△ 2,718,544	19,460,700	△ 16,949,090	1,190,000	7,430,132	0	△ 8,328,958
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0		
当期経常増減額	**△ 20,122,596**	**△ 9,814,900**	**△ 3,753,750**	**△ 2,718,544**	**19,460,700**	**△ 16,949,090**	**1,190,000**	**7,430,132**	**0**	**△ 8,328,958**
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
中科目別記載										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用										
中科目別記載										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 20,122,596	△ 9,814,900	△ 3,753,750	△ 2,718,544	19,460,700	△ 16,949,090	1,190,000	7,430,132		△ 8,328,958
他会計振替額					595,000	595,000	△ 595,000	0		0
当期一般正味財産増減額	△ 20,122,596	△ 9,814,900	△ 3,753,750	△ 2,718,544	20,055,700	△ 16,354,090	595,000	7,430,132	0	△ 8,328,958
一般正味財産期首残高					69,750,093	69,750,093	500,000	75,265,770	0	145,515,863
一般正味財産期末残高	△ 20,122,596	△ 9,814,900	△ 3,753,750	△ 2,718,544	89,805,793	53,396,003	1,095,000	82,695,902	0	137,186,905
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金		6,500,000				6,500,000		0		6,500,000
受取寄付金	100,000					100,000				100,000
一般正味財産への振替額	△ 100,000	△ 7,569,824				△ 7,669,824		0		△ 7,669,824
当期指定正味財産増減額	0	△ 1,069,824				△ 1,069,824		0		△ 1,069,824
指定正味財産期首残高	0	2,569,824				2,569,824		0		2,569,824
指定正味財産期末残高	0	1,500,000				1,500,000		0		1,500,000
Ⅲ 正味財産期末残高	**△ 20,122,596**	**△ 8,314,900**	**△ 3,753,750**	**△ 2,718,544**	**89,805,793**	**54,896,003**	**1,095,000**	**82,695,902**	**0**	**138,686,905**

Ⅴ．名誉会員候補者一覧（令和 3 年度）

理事会は，名誉会員推薦規定第 2 条第 1 項第 1 号 b）及び同運用基準第 2 項第 1 号，第 2 号に該当すると判断し，次の 2 氏を推薦いたします.

令和 3 年 4 月 1 日現在，氏名五十音順

氏名 （所属）	年齢 正会員歴	薬理学への功績	本会の 発展への功績
稲垣　直樹 （岐阜医療科学大学薬学部）	65 歳 43 年	アレルギー治療薬の作用機序の解析および抗アレルギー薬候補物質の探索，ならびにアレルギー病態モデルの開発	委　員 12 年 部会長
福永　浩司 （東北大学大学院 薬学研究科）	65 歳 43 年	脳神経系における Ca^{2+}/カルモデュリン依存性プロテインキナーゼの機能解明と脳機能改善薬の創製	理　事 6 年 委　員 10 年 部会長

「名誉会員推薦規定」（抜粋）

（資　格）

第２条 名誉会員として推薦することができる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする.

(1) 本会の正会員として 20 年以上在籍し，年齢 65 才以上の，役員または常置委員在任中ではない者で，かつ次の事項のいずれかに該当する者

a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者

b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者

(2) 非会員のうち，薬理学における学術上の功績が大であり，かつ特に本会の発展に功績が顕著である者

2　前項第 1 号の正会員歴の算定にあたり，理事会は特別の考慮を払うことができる.

3　第 1 項第 1 号にかかわらず，理事会は特段の審議を行い，学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる.

「名誉会員推薦規定運用基準」（抜粋）

2. 名誉会員推薦規定第２条第１号 b）の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする.

(1) 理事，監事又は年会長を経験した者

(2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算 10 年以上経験した者

3. 名誉会員推薦規定第 2 条第 2 号については，以下のとおりとする.

(1) 「薬理学における学術上の功績が大である者」は，学士院賞に相当する以上の賞の受賞者又は理事会がそれと同等以上の学術上の功績があると認めた者とする.

(2) 「特に本会の発展に功績が顕著である者」は，本会の学術集会で特別講演を行った者，Journal of Pharmacological Sciences に極めて価値のある総説を寄稿した者，Journal of Pharmacological Sciences の Regional Editor として貢献した者，又は理事会がそれらと同等以上の功績があると認めた者とする.

Ⅵ. 永年会員候補者一覧（令和 3 年度）

理事会は,永年会員推薦規定第 2 条 及び 同運用基準第 1 項に該当すると判断し,次の 12 氏を推薦いたします.

令和 3 年 4 月 1 日現在，氏名五十音順

氏名／所属歴		年齢	学術評議員歴	正会員歴	適用運用基準
大浦　清	大阪歯科大学 太成学院大学	70 歳	34 年		第 1 号
西尾　眞友	金沢医科大学 (医)長久会 加賀のぞみ園	70 歳	30 年	50 年	第 1 号
岡原　猛	香川医科大学	75 歳	－	50 年	第 2 号
加藤　正秀	養命酒製造㈱ 串木野研究所	80 歳	－	50 年	第 2 号
呉　晃一郎	日本臓器製薬㈱	74 歳	－	50 年	第 2 号
齊田　孝市	帝京平成大学 帝京短期大学	73 歳	－	50 年	第 2 号
佐藤　誠	ニプロ㈱	73 歳	－	50 年	第 2 号
西村　友男	星薬科大学	72 歳	－	50 年	第 2 号
樋口マキヱ	九州看護福祉大学	77 歳	－	50 年	第 2 号
廣井　純	司薬品	72 歳	－	50 年	第 2 号
堀　信顯	University at Albany, The State University of New York	85 歳	－	50 年	第 2 号
村田　栄	田辺製薬㈱	77 歳	－	50 年	第 2 号

永年会員推薦規定（抜粋）

第２条　永年会員として推薦することができる者は，年齢 70 才以上であり，かつ別に定める永年会員推薦規定運用基準に該当する者とする.

永年会員推薦規定運用基準（抜粋）

1. 永年会員推薦規定第 2 条に基づき，理事会が永年会員に推薦する者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない.

(1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり，かつ，部会長，常置委員会委員，特別委員会委員，Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者

(2) 本会の正会員として 50 年以上在籍した者

Ⅶ. 部会選出新常置委員会委員一覧

2022，2023 年度

部会選出新常置委員一覧

（委員は五十音順，次点者は得票順）

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
小原祐太郎	赤羽　悟美	吾郷由希夫	香月　博志
久米　利明	安西　尚彦	石澤　啓介	首藤　　剛
平　　英一	石川　智久	大野　行弘	武田　泰生
新田　淳美	諫田　泰成	大矢　　進	津田　　誠
守屋　孝洋	木内　祐二	金子　周司	柳田　俊彦
若森　　実	黒川　洵子	田熊　一敞	山口　　拓
	三枝　　禎	土屋浩一郎	
	坂本　謙司	冨田　修平	
	杉山　　篤	西山　　成	
	成田　　年	橋本　　均	
	三澤日出巳	森岡　徳光	
	村松里衣子	山村　寿男	
次点者	次点者	次点者	次点者
丹野　孝一	石毛久美子	金井　好克	岩本　隆宏
吉岡　充弘	辻　　稔	古屋敷智之	西　　昭徳
日比野　浩	廣瀬　謙造	池田　康将	池田　龍二
南　　雅文	池谷　裕二	高井　真司	高橋　富美
谷村　明彦	茶木　茂之	北村　佳久	齊藤　源顕
東田　千尋	小泉　修一	永井　　拓	西田　基宏
	上園　保仁	金田　勝幸	
	山田　充彦	北市　清幸	

Ⅷ. 規則の制定・変更

制　　定

日本薬理学会次世代の会規約

令和２年８月５日制定

- 日本薬理学会次世代の会（以下、次世代の会）は、若手薬理学研究者の活性化を通じて日本薬理学会の発展に寄与することを目指す、学会公認組織である。
- 次世代の会は各種イベント、シンポジウム、セミナー等を積極的に主催することで、若手薬理学会員の交流、育成、研究発表の機会を提供する。また若手に留まらず幅広い薬理学会員に対して学術的に有益な企画の提供を目指す。
- 次世代の会の構成員は、会員および運営委員からなる。
- 次世代の会会員には、次世代の会企画の案内、優先的な参加、活動への提言等の機会が提供される。会員登録条件等は以下の通りであり、年齢等は問わない。

会員登録条件

1）日本薬理学会会員である。

2）次世代の会の趣旨に賛同し、活動に積極的に参画することができる。

会員登録方法

1）次世代の会ホームページの会員登録フォームから登録する。

- 次世代の会運営委員は、次世代の会の各種活動について実際の業務を担当する。この機会を生かし、日本薬理学会の次世代を担う若手同志の交流を深化すること、学会へ学術的に貢献すること等が強く期待される。運営委員への就任条件等は以下の通りである。年齢、性別、研究分野、所属組織、所属部会の多様性とバランスに配慮した運営委員構成を目指す。

運営委員就任条件

1）次世代の会会員である。

2）日本薬理学会学術評議員である。または速やかに学術評議員に就任する意思がある。

3）教授、教授相当職、研究室主宰者に就任していない。

4）就任時 40 歳未満であることが望ましい。余人を持って替えがたい場合はその限りではないが、任期中に任期上限を迎えないこと。

5）運営委員としての業務に熱意を持って取り組むことができる。

運営委員任期

1）4 月 1 日付就任で、任期は 2 年とする。ただし再任は妨げない。

2）任期上限は 45 歳を迎えたあとの 3 月末日とする。

3）任期中であっても、教授、教授相当職、研究室主宰者への就任をもって退任とする。

運営委員就任方法

1）決められた募集期間に運営委員就任願を次世代の会に提出し、次世代の会代表より承認を得る。

- 次世代の会を統括する代表は、運営委員の互選により選出する。代表の任期は 2 年とする。

変　更

定款施行細則

現　行	変　更
	(3 項を追加)
第 19 条　本会は，毎年定時総会の時期にあわせて年次学術集会（年会）を開催する．	第 19 条
2　本会に年会長，次期年会長各 1 名を置く．	2　本会に年会長，次期年会長 1 名を置く．必要に応じて各年会に副年会長 1 名を置くことができる．副年会長は年会長を補佐し，また年会長に事故がある時または欠けたときには副年会長がその職務を代行することができる．
	3　副年会長は学術評議員の中から年会長が指名する．副年会長は就任年の 4 月 1 日に年齢満 65 歳未満でなければならない．
3　年会長の任期は前学術年会の終了後から担当年会の終了時までとする．	4　年会長および副年会長の任期は前学術年会の終了後から担当年会の終了時までとする．
第 54 条　各部会に部会長を置く．	第 54 条　各部会に部会長を置く．必要に応じて各部会に副部会長 1 名を置くことができる．副部会長は部会長を補佐し，また部会長に事故がある時または欠けたときには副部会長がその職務を代行することができる．
2　部会長は，当該部会学術評議員会において選出する．	2　部会長は，当該部会学術評議員会において選出する．副部会長は学術評議員の中から部会長が指名する．副部会長は開催年の 4 月 1 日に年齢満 65 歳未満でなければならない．
3　部会長の任期は，前学術地方部会の終了後から担当学術地方部会の終了時までとする．	3　部会長および副部会長の任期は，前学術地方部会の終了後から担当学術地方部会の終了時までとする．
	附則　本細則は令和 2 年 8 月 5 日より施行する．

名誉会員推薦規定運用基準

現　行	変　更
2. 名誉会員推薦規定第 2 条第 1 号 b）の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする．	
(1) 理事，監事又は年会長を経験した者	
(2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算 10 年以上経験した者	
委員歴の算定に当たり，次の事項はいずれも委員歴 2 年と数える．	
a）部会長経験者	a）部会長及び副部会長経験者
b）常置委員以外の Journal of Pharmacological Sciences の Editor 経験者	
c）常置委員以外の日薬理誌の編集委員経験者	
d）64 才で就任し任期 1 年で退任した選挙選出常置委員	
	附則　本基準は令和 2 年 8 月 5 日より施行する．

永年会員推薦規定運用基準

現　行	変　更
1. 永年会員推薦規定第 2 条に基づき，理事会が永年会員に推薦する者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない．	
(1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり，かつ，部会長，常置委員会委員，特別委員会委員，Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者	(1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり，かつ，部会長，副部会長，常置委員会委員，特別委員会委員，Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者
	附則　本基準は令和 2 年 8 月 5 日より施行する．

新学術評議員選考規定

現　行	変　更
（特　例） 第 6 条　薬理学を基盤とする教育・研究を担当する講座（部門）の教授，大学病院の薬剤部長及び委員会がこれに準ずると判定した者については，会員歴に関して，特別の考慮を払うものとする．	第6条　薬理学を基盤とする教育･研究を担当する講座(部門)の教授，大学病院の薬剤部長，企業の役職者及び委員会がこれに準ずると判定した者については，会員歴に関して，特別の考慮を払うものとする． 附則　本規定は令和２年８月５日より施行する．

利益相反（COI）マネージメント施行細則

現　行	変　更
第１条（COI で申告すべき項目と申告の基準） 1）本学会学術集会などでの発表，2）本学会誌などでの発表，3）第４条第１項に定める役員・委員等，4)学術集会・講演会責任者（年会長・部会長等）の就任により COI の申告を必要とされる者の申告すべき項目と申告の基準は次表のとおりとする．	第１条（COI で申告すべき項目と申告の基準） 1）本学会学術集会などでの発表等，2）本学会誌などでの発表，3）第４条第１項に定める役員・委員等，4)学術集会・講演会責任者（年会長・部会長等）の就任により COI の申告を必要とされる者の申告すべき項目と申告の基準は次表のとおりとする．
第２条（本学会学術集会などでの発表） 第１項（開示の範囲） 本学会学術集会などでの発表で開示する義務のある COI 状態は，会員・非会員の別を問わず発表内容に関連する企業や団体に関わるものに限定し，次のような関係とする．	第２条（本学会学術集会などでの発表等） 第１項（開示の範囲） 本学会学術集会などでの発表，企業等が主催，共催するランチョンセミナー，イブニングセミナーあるいは研究会や講演会における座長／司会者は，会員・非会員の別を問わず発表内容に関連する企業や団体に関わるものに限定し，次のような関係の COI 状態を開示しなければならない．
第３条（本学会誌などでの発表） 第２項（開示の方法） 本学会の学会誌 Journal of Pharmacological Science および 日本薬理学雑誌 などで発表を行う著者は，投稿時に投稿規定に定める様式（様式２）により，COI 状態を明らかにしなければならない．この様式は論文末尾，References の直前の場所に印刷される．規定された COI 状態がない場合は，同部分に，「The authors indicated no potential conflicts of interest.」などの文言を入れる．投稿時に開示すべき COI の項目および基準は，第１条のとおりとする．開示が必要なものは論文投稿時の前年から過去３年間のものとする．なお，申告の内容は論文査読者には開示しない．	第２項（開示の方法） 本学会の学会誌 Journal of Pharmacological Science および 日本薬理学雑誌 などで発表を行う著者は，投稿時に投稿規定に定める様式（様式２）により，COI 状態を明らかにしなければならない．また，出版受理時には追加の申告書を提出しなければならない．この様式は論文末尾，References の直前の場所に印刷される．規定された COI 状態がない場合は，同部分に，「The authors indicated no potential conflicts of interest.」などの文言を入れる．投稿時に開示すべき COI の項目および基準は，第１条のとおりとする．開示が必要なものは論文投稿時の前年から過去３年間のものとする．なお，申告の内容は論文査読者には開示しない．
第５条（COI 自己申告書の取扱い） 第４項: 非会員から特定の会員を指名しての開示請求（法的請求も含めて）があった場合，妥当と思われる理由があれば，理事長からの諮問を受けて COI 委員会が個人情報の保護のもとに適切に対応する．COI 委員会は開示請求書を受領してから３０日以内に委員会を開催して可及的すみやかにその答申を行う．	第４項: 学会外部から特定の会員を指名しての開示請求（法的請求も含めて）があった場合，妥当と思われる理由があれば，理事長からの諮問を受けて COI 委員会が個人情報の保護のもとに適切に対応する．COI 委員会は開示請求書を受領してから３０日以内に委員会を開催して可及的すみやかにその答申を行う．
	附則　本細則は令和２年 12 月 11 日より施行する．

COI 申告書

現　行	変　更
様式２(2017 年 12 月 8 日総務委員会改定) **日本薬理学雑誌：自己申告によるＣＯＩ 報告書** 著　者　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 論文演題名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ （著者全員について，投稿時の前年から遡って過去３年間の期間を対象に，発表内容に関係する企業・組織または団体とのＣＯＩ状態を記載）	様式２(2020 年 11 月 10 日総務委員会改定) **日本薬理学雑誌：自己申告によるＣＯＩ 報告書** 著　者　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 論文演題名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ （著者全員について，投稿時の前年から遡って過去３年間および出版受理時点までの期間を対象に，発表内容に関係する企業・組織または団体とのＣＯＩ状態を記載）

個人情報の適正な管理・利用等に関する申合せ

現　行	変　更
本申合せは，公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）が，会員の個人情報を取り扱うにあたり，「個人情報の保護に関する法律」,「個人情報の適切な管理のための措置に関する指針」を遵守し，文部科学省からの指導に従って，適正に管理・利用，保護するための事項を定めるものである． １．利用目的の特定 会員より取得する個人情報は，本会の学術研究に関する事業の用に供することを目的とし，これ以外の目的には利用しない． ２．適正な取得，正確性の確保 個人情報の取得は，原則として会員の自己申告に基づき，正確性，最新性の確保に努める． ３．安全管理措置，従業者・委託先の監督 会員の個人情報を取扱う部門においては，アクセスできる職員を必要最小限度とし，内部牽制に努める．１．の目的において個人情報を外部委託業者に提供する場合は，守秘義務契約を結ぶ等必要な措置を講じ，適切な管理・監督を行う． ４．利用停止，請求等の処理 会員からの個人情報の訂正，利用停止の連絡，などの求めには適切かつ迅速に対応する．	本申合せは，公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）が，会員及び本会の活動に参画する非会員の個人情報を取り扱うにあたり，「個人情報の保護に関する法律」，「個人情報の適切な管理のための措置に関する指針」を遵守し，関係省庁並びに個人情報保護委員会からの指導・助言に沿って，適正に管理・利用，保護するための事項を定めるものである． 会員より取得する個人情報は，本会の学術研究に関する事業の用に供することを利用目的の範囲とする．非会員より個人情報を取得する場合は，利用目的を本人に明示する．本会が取得した個人情報を，特定した利用範囲以外のことに利用しようとするときは，あらかじめ本人の同意を得なければならない． 個人情報は，利用目的の達成に必要な範囲内において，正確性，最新性を確保し，個人情報を利用する必要がなくなったときは，速やかに消去するように努めなければならない． 個人情報を取扱う部門においては，アクセスできる職員を必要最小限度とし，内部牽制に努める．１．の目的において個人情報を外部委託業者に提供する場合は，守秘義務契約を結ぶ等必要な措置を講じ，適切な管理・監督を行う． 本人から個人情報の訂正，利用停止の連絡，などの求めには適切かつ迅速に対応する． ５．漏えい等の処理（追加） 漏えい等が発生し個人の権利利益を害するおそれがある場合，理事長への報告及び本人への通知を行い，適切な対応を講ずる． 附則　本申合せは令和２年 12 月 11 日より施行する．

情報公開資料の閲覧に関する内規

現　行	変　更
1. 公益社団法人日本薬理学会は，事務局に一般開示用に下記の資料を備え置き，請求に応じて閲覧に供するものとする． 2. 閲覧を希望する者は，閲覧申込書に必要事項を記入し，事務局に提出しなければならない． 3. この内規に定めるもののほか必要な事項はその都度定める． 情報公開用資料 1）定款 2）会員名簿 3）役員名簿 4）代議員名簿（「一般社団・財団法人法」で規定する社員） 5）事業報告書 6）収支計算書 7）正味財産増減計算書 8）貸借対照表 9）財産目録 10）事業計画書 11）収支予算書 12）総会資料	1. 公益社団法人日本薬理学会は，事務局に一般開示用として 3. の書類を備え置き，請求に応じて閲覧に供するものとする． 2. 閲覧を希望する者は，閲覧申込書に必要事項を記入し，事務局に提出しなければならない． 3. この内規に定めるもののほか必要な事項はその都度定める． ○常時備え置く書類 1）定款 2）代議員名簿（「一般社団・財団法人法」で規定する社員） ○開催の日から 10 年間備え置く書類 1）社員総会の議事録 2）理事会の議事録 ○毎事業年度の経過後 3 ヵ月以内から 5 年間備え置く書類 1）財産目録 2）役員等名簿 3）役員報酬等の支給基準 4）運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類 ○社員総会の 2 週間前の日から 5 年間備え置く書類（総会資料に該当） 1）貸借対照表（注記を含む）及びその附属明細書 2）損益計算書（注記を含む）及びその附属明細書 3）事業報告及びその附属明細書 4）監査報告 ○毎事業年度開始の日の前日から当該事業年度の末日まで備え置く書類 1）事業計画書 2）収支予算書 3）資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 ○備え置き及び閲覧等の措置を講ずる必要がある書類 1）特定費用準備資金の積立限度額やその算定の根拠等について記載された書類 2）資産取得資金の目的である財産の取得（又は改良）に必要な最低額やその算定の根拠等について記載された書類 3）公益認定法施行規則第 22 条第 3 項第 5 号及び同第 6 号に規定する財産の内容について記載された書類 附則　本内規は令和 2 年 12 月 11 日より施行する．

Ⅸ. 理事会等報告

理 事 長：谷内 一彦　以上 1名
理　　事：赤羽 悟美，安西 尚彦，石井 邦明，石川 智久，上原　孝，金子 周司，諫田 泰成，吉川　公平，
小泉 修一，五嶋 良郎，杉山　篤，津田　誠，戸村　裕一，西堀 正洋，原　英彰，古屋敷智之，
南　雅文，宮田 篤郎，矢部 千尋　以上 19名
監　　事：笹栗 俊之，関野 祐子　以上 2名
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：金井 好克，吉岡 充弘　以上 2名

1.理事会構成について

2020年度は，谷内 一彦理事長，安西 尚彦総務委員長，赤羽 悟美財務委員長，小泉 修一編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の20名で理事会が運営された．監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した．吉岡 充弘前理事長，金井 好克国際対応委員長がオブザーバーとして参加し，理事会運営を支援した．

2．学会の運営方針について

1)「オープンイノベーション活動」をさらに発展させる，2)「薬理学エデュケーター」認定制度により，薬理学における高度な教育技術を備えた会員を薬理学エデュケーターに認定する，3）学術集会の効率的な運用のための基盤を構築する，4）国内の他学会，アジア諸国並びに世界各国薬理学会との連携を発展させる，5）「Journal of Pharmacological Sciences」,「日本薬理学雑誌」の発行を継続し，国内外へ情報を発信する，6)「日本薬理学会創立百周年」を中期目標とし，記念事業の企画及び準備を進める，各活動方針のもとに学会運営を行った．
今期は常務理事，常置委員会委員長，年会長で拡大常務理事会を構成し，理事長とともに学会運営に係る重要事項を検討した

3．学会の在り方と薬理学の展開について

日本医学会の「医学研究の利益相反（COI）マネージメントに関するガイドライン」に沿い，それぞれの事業でCOIの開示に務めた．

1）学術集会，講演会等の開催事業について

・第93回年会(五嶋 良郎年会長)は，3月16日から18日まで，パシフィコ横浜で開催予定であったが，新型コロナウイルス感染拡大のため誌上開催となった．
　テーマ：『Bidirectional talk between bench and bedside　薬理学を一つの舞台に』
・地方部会は，第142回関東部会，第143回関東部会，第137回近畿部会，第138回近畿部会，第73回西南部会がそれぞれオンラインで，第71回北部会は，オンラインとオンサイトのハイブリッドで開催された．
・薬理学振興助成事業の公開講座は第142回関東部会，第143回関東部会でともにオンラインで開催された．
・次世代の会による次世代薬理学セミナーは第71回北部会の開催形態に合わせてオンラインとオンサイトのハイブリッドで開催された．
・看護薬理学セミナーは11月21日と12月20日にそれぞれオンラインで開催された．

2）学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌は2020年より隔月刊となり，奇数月に発行された．
・Japanese Pharmacological Sciences（JPS）はElsevierの編集事務局経費のみを支払う契約に変更した．
JPS査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設されたJPS優秀査読者賞の令和2年度受賞者3名を決定した．

3）研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき西堀 正洋教授（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）を第14回江橋節郎賞受賞者に決定した．

・第 36 回学術奨励賞受賞者 3 名及び第 25 回 JPS 優秀論文賞受賞論文 1 編を決定した．JPS 優秀論文賞は，過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数の多い順に約 10 編を選び，その中から選考されている．

4) 薬理学に関する研究及び調査について

・日本生理学会と連携し「COVID-19 に対する各大学の対応と生理学及び薬理学教育への影響に関する緊急合同アンケート調査」を行った．調査結果は，コロナ禍での薬理学教育のあり方を考える上で役に立つようホームページで公開した．

・春部会のオンライン開催について 2020 年 9 月 10 日から 25 日まで，第 142 回関東部会参加者と第 137 回近畿部会の参加者にアンケートを実施した．オンライン開催に対して満足度は比較的高く前向きな意見が多く寄せられた一方で浮かび上がってきた課題もあり，今後検討する．

5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

・Joint Meeting of NC-IUPHAR and the British pharmacological Society を 2020 年 11 月 19 日～21 日にオンラインで開催した．

・IUPHAR town hall meeting（新ガバナンス体制案についての説明及び意見交換会）を 2020 年 11 月 23 日 22:00～23:00 に Web で開催し，谷内理事長，赤羽副理事長が出席した．参加国は，USA, UK, Japan, China, Australia, India, Italy の 7 ヵ国である．

・その他予定されていた国際会議は延期等が決定した．

4. 令和 2 年度の「薬理学エデュケーター認定」申請には 128 名の申請があり，全員が認定された．認定期間は令和 3 年から 5 年間である．特例による申請受付は令和 2 年をもって終了した．

5. 第 96 回年会長候補者（2022 年），第 97 回（2024 年）年会長候補者の決定

第 96 回日本薬理学会年会長として千葉大学大学院医学研究院薬理学の安西 尚彦教授が提案され，承認された．第 96 回年会は，2022 年 12 月に第 43 回日本臨床薬理学会学術総会とパシフィコ横浜で同時開催される予定である．また，第 97 回年会は近畿部会の担当とし，年会長候補者を内定した．

6. 名誉会員の推薦

令和 3 年度に就任する名誉会員候補者 2 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した．

稲垣 直樹，福永 浩司

7. 永年会員の推薦

令和 3 年度に就任する永年会員候補者 12 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した．

大浦　　清，西尾　眞友，岡原　　猛，加藤 正秀，呉 晃一郎，齊田 孝市，佐藤　　誠，西村 友男，
樋口マキヱ，廣井　　純，堀　　信顯，村田　　栄

8. 令和 3 年度薬理学振興助成事業決定について

1）次世代薬理学セミナー，2）市民公開講座，3）ダイバーシティー推進ランチョンセミナー2021，4）看護薬理学カンファレンス 2021，5）臨床医のための薬理学シンポジウム，6）アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンスセミナー，7）若手研究者キャリア支援プログラム，8）医学と医療における日本の薬理学の貢献（仮題）パンフレット作成，の各助成事業及び助成額を決定した．

9. 令和 2 年度の事業報告及び決算を承認し，学術評議員会及び総会に付議する．令和 3 年度事業計画及び予算は，令和 2 年 12 月 11 日開催の理事会の承認，決定を経て内閣府に提出した．

10. 令和 2 年度の新規入会者 332 名を承認した．令和 3 年度からシニア割引適用を希望する 7 名を承認した．

2022，2023 役員年度　役員等選挙報告

役員（理事・監事）選挙

1. 役員候補者被選挙権者の推薦

令和 2 年 10 月 1 日：会員専用サイトに被選挙権有資格者名簿公示，Web 推薦受付開始

10 月末日：推薦締切

11 月 10 日：役員候補者被選挙権者確定　開票管理者　安西　尚彦　総務委員長

杉山　　篤　総務委員

2名以上からの推薦を受け役員候補者被選挙権者となった者	北	関東	近畿	西南	
	２７	９４	１０１	３２	
			推薦権行使者数		396
			推薦権行使率		31.9(%)

2. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

令和 2 年 11 月 16 日：　会員専用サイトに被選挙権者名簿公示，投票サイトオープン

12 月 7 日：　投票締切

12 月 8 日：　４部会一斉開票（候補者決定）

16 日：　選挙結果を学会ホームページの会員専用サイトで通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	66	194	194	96	550
投票率	46.8	39.0	44.5	58.9	44.4(%)
(前回)	(50.4)	(40.5)	(45.8)	(47.0)	(46.5)

開票管理者 北 部 会：　守屋　孝洋　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長

関東部会：　杉山　　篤　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長

近畿部会：　土屋浩一郎　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長

西南部会：　杉山　　篤　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長

【Web 選挙結果】(50 音順)

理事候補者

北 部 会：新田　淳美，南　　雅文，吉岡　充弘，若森　　実　　以上 4 名

関東部会：赤羽　悟美，石川　智久，諫田　泰成，黒川　洵子，小泉　修一，

杉山　　篤，辻　　稔，成田　　年，廣瀬　謙造，三澤日出巳　　以上 10 名

近畿部会：石澤　啓介，上原　　孝，大野　行弘，金井　好克，田熊　一敞，

西山　　成，橋本　　均，古屋敷智之，山田　清文，吉栖　正典　　以上 10 名

西南部会：甲斐　広文，武田　泰生，津田　　誠，柳田　俊彦　　以上 4 名

監事候補者　石毛久美子，上園　保仁，川畑　篤史，平　英一，西　昭徳，原　英彰　　以上 6 名

3. 役員選挙（第二段選挙：年会時学術評議員会参加登録者による Web 投票）

令和 3 年 2 月　　:会員へのお知らせに役員候補者の抱負と役員候補者名簿掲載.

3 月 2 日～6 日：Web 投票

3 月 7 日　　：理事会で開票

3 月 8 日　　:年会学術評議員会で発表

常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 2. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）.

X．委員会等報告

（各委員会委員名は五十音順，敬称略）

総務委員会報告

委員長：安西 尚彦

委　員：天野　託，齊藤 源顕，佐藤 洋美，杉山　篤，土屋浩一郎，冨田 修平，西　昭徳，橋本　均，守屋 孝洋

本年度は 6 月 30 日，11 月 10 日に委員会を Zoom ミーティングにて開催した．

1. 規則の変更について

・学術評議員選考規定の条文の見直しについて

新学術評議員の申請要件として，定款施行細則第 29 条に「会員歴原則継続 5 年以上」と定められている．会員の多数を占める企業所属会員が，学会の活動や運営に積極的に参画できるよう「企業の役職者」を会員歴の特例として新学術評議員選考規定第 6 条に追記した．

第 6 条　薬理学を基盤とする教育・研究を担当する講座（部門）の教授，大学病院の薬剤部長及び委員会がこれに準ずると判定した者については，会員歴に関して，特別の考慮を払うものとする．

↓

第 6 条　薬理学を基盤とする教育・研究を担当する講座（部門）の教授，大学病院の薬剤部長，企業の役職者及び委員会がこれに準ずると判定した者については，会員歴に関して，特別の考慮を払うものとする．

・副年会長及び副部会長の要件について

年会に副年会長を，各部会に副部会長をそれぞれ置くことができること，副年会長及び副部会長の職務を明記し，また，就任のための年齢要件と任期はいずれも年会長，部会長に準ずることを定款施行細則第 19 条及び同第 54 条に追加する変更である．年会長あるいは部会長が学術評議員会の議を経て決定されることを鑑み，副年会長あるいは副部会長を置く場合，当該年会長あるいは当該部会長は，それぞれの就任を承認された学術評議員会に報告し，その承認を得ることを確認した．

第 19 条

2　本会に年会長，次期年会長 1 名を置く．必要に応じて各年会に副年会長 1 名を置くことができる．副年会長は年会長を補佐し，また年会長に事故がある時または欠けたときには副年会長がその職務を代行することができる．

3　副年会長は学術評議員の中から年会長が指名する．副年会長は就任年の 4 月 1 日に年齢満 65 歳未満でなければならない．

4　年会長および副年会長の任期は前学術年会の終了後から担当年会の終了時までとする．

第 54 条　各部会に部会長を置く．必要に応じて各部会に副部会長 1 名を置くことができる．副部会長は部会長を補佐し，また部会長に事故がある時または欠けたときには副部会長がその職務を代行することができる．

2　部会長は，当該部会学術評議員会において選出する．副部会長は学術評議員の中から部会長が指名する．副部会長は開催年の 4 月 1 日に年齢満 65 歳未満でなければならない．

3　部会長および副部会長の任期は，前学術地方部会の終了後から担当学術地方部会の終了時までとする．

・名誉会員推薦規定運用基準および永年会員推薦規定運用基準の条文見直しについて

副年会長あるいは副部会長を新名誉会員推薦や新永年会員推薦の際の功績として委員歴 2 年に算定することを理事会に提案し，承認された．

・COI マネージメント施行細則について

令和 2 年 3 月に「日本医学会 COI ガイドライン」の一部改定が行われたため，その改定を反映した「COI マネージメント施行細則」および「COI 様式開示例」の変更である．

ⅰ）「COI マネージメント施行細則変更案」は，令和 2 年 3 月の「日本医学会 COI ガイドライン」の一部改定に合わせて第 2 条第 1 項に，学術集会での座長や司会者の COI 状態を開示すること，同第 2 項に，座長，司会者の COI 開示方法を追加すること，第 3 条第 2 項に，学術誌の発表の開示方法として出版受理時に追加の申告書を提出すること，「COI 様式開示例」は今回の改定を反映した変更である．

ⅱ）「個人情報保護に関する申合せ変更案」は，個人情報の保護に関する法律の見直しが 3 年ごとにあり，本年 6 月に行われた個人情報保護法の改正に合わせた変更である．個人情報の漏えい等が発生し，個人の権利利益を害するおそれがある場合，理事長への報告及び本人への通知を行い，適切な対応を講ずることを「漏えい等の処理」として申合せに追加した．

ⅲ）「情報公開に関する申合せ変更案」は 11 月 17 日に行われた内閣府立入検査で，公益法人の透明性確保のため，事務局に備え置く書類を整備し，開示請求があった場合に即時に対応できる体制が必要であるとの指摘を受け，備え置く書類の種類と開示期間を明文化したものである．

2. 第94回年会がオンライン開催となった場合の役員選挙について
第94回年会は対面とオンライン併用での開催準備が進められている．学術評議員会がオンライン開催となった場合，役員選挙もオンライン投票とし，ⅰ）役員等選挙実施規定第2条に定める投票有権者「学術評議員会出席学術評議員」を「年会学術評議員会の参加申込期限までに，参加申込及び参加登録費を納入した学術評議員」に読み替える，ⅱ）開票結果をオンライン学術評議員会で報告できるよう投開票日程を設定する，ⅲ）候補者を第95回年会の総会で承認するスケジュールで実施することを確認した．

3. 新名誉会員・新永年会員の推薦について
名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，令和3年度に就任する名誉会員候補者2名，永年会員候補者12名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した．

4. シニア会費適用の申請について
令和3年度会費からシニア会費適用を希望する会員について申請内容を確認し，申請者7名全員にシニア会費が適用されることを確認し，理事会に報告した．

5. 選挙投票率ならびに開票報告について
・9月1日から9月30日まで実施された代議員選挙の最終投票率は，以下のとおりであり，いずれも前回投票率を上回ったことが報告された．
北部会：26.5%，関東部会：22.6%，近畿部会：23.9%，西南部会：28.1%
・10月1日から10月31日まで実施された役員候補者推薦投票の最終投票率は，以下のとおりである．
今回の推薦投票では，全国区で女性，公的機関所属，企業所属各会員1名ずつの推薦を受け付け，役員選考委員会が理事候補者を選出するときの参考資料とする．
北部会：34.0%，関東部会：27.3%，近畿部会：33.7%，西南部会：39.8%，全国区：32.0%
公的機関所属に，大学所属の会員が多く推薦された結果を受けて，次回実施の際には，公的機関の範囲について説明を加えることを確認した．
・役員候補者推薦投票結果を受けて2022年に就任する役員候補者・常置委員選挙を11月16日から12月7日まで投票期間を一週間延長して実施した．
北部会：46.8%，関東部会：39.0%，近畿部会：44.5%，西南部会：58.9%
当該選挙により選出された役員の候補者には年会選挙に向けて抱負の提出を依頼した．

利益相反（COI）委員会報告
委員長：安西 尚彦
委　員：天野　託，齊藤 源顕，佐藤 洋美，杉山　篤，土屋浩一郎，冨田 修平，西　昭徳，橋本　均，守屋 孝洋

COI申告書については，例年総務委員会に合わせて委員長と委員1名により審査が行われてきた．今年の総務委員会はZoomミーティングのため，11月10日の役員候補者推薦投票の開票立ち合い時に杉山委員とともに申告書の審査を行った．

財務委員会報告
委員長：赤羽 悟美
委　員：上園 保仁，岡村 信行，五嶋 良郎，武田 泰生，冨田 修平，橋本　均，三澤日出巳，吉岡 充弘，吉栖 正典
谷内 一彦（オブザーバー）

委員会を11月13日にZoomにより開催し，令和2年度の決算処理を行い，令和3年度の予算案を編成した．重要事項については前財務委員長を含む4名でワーキンググループを構成し，事前に検討を行った．
定例委員会の他に必要に応じてZoomミーティングを行った．
1. 令和2年度決算について
新型コロナウイルスが事業運営に大きな影響を与えたものの，支出の減少が収入の減少を上回り，令和2年度は1,259万円の黒字で決算した．黒字決算を受けて，一般正味財産が前年度より約1,259万円増加の1億9,228万円となり，令和2年度の正味財産は，指定正味財産と合わせて2億384万円となった．
1）個人会費収入の減少傾向は続いているが，賛助会費収入は退会の申し出があった機関への働きかけにより前年度並みの収入を維持した．

2）公1事業：
・第93回年会は誌上開催となったが，支出のうち大きな割合を占める会場費でキャンセル料が発生しなかったため，

約 350 万円の黒字となった．日薬連の年会への寄付金 1,000 万円は，第 93 回年会長及び日薬連双方の承諾を得て，次回（第 94 回年会）に繰り越して使用する決算処理を行った．

・部会開催及び薬理学振興助成事業をオンライン（一部はハイブリッド）で実施したことにより，部会収支はほぼ均衡して終了し，6 開催の合計で交付金を使用することはなかった．薬理学振興助成事業の約 500 万円の補助金予算は，予算額を下回った消費額で決算した．

3）公２事業：

出版事業は，令和 2 年度から発行形態や委託契約を変更した．

・和文誌は隔月刊となったため，購読料収入や広告料収入等が減少し，約 520 万円の収入であったが，印刷費，発送費，消耗品費の減少と委員会のオンライン開催等により，支出も抑えられ約 1,387 万円となった．その結果，赤字額は約 875 万円となり前年度の約 1,000 万円に比べて減少した．

・英文誌は，掲載料収入と広告料収入の合計が 14 万ドルを超えた金額の 10%が学会にロイヤリティとして支払われる契約であるが，エルゼビアでの収益のとりまとめ時期が学会の決算とずれ込むため，令和 2 年度の決算には反映できていない．支出はエルゼビアの事務局経費の 45,000 ドルだけとなった．

・国際情報発信科研費は 5 年間の補助金（650 万円/年）が採択された．

4）公３及び公４事業：　褒賞事業・連携事業は，委員会のオンライン開催により旅費が減少した．

5）その他事業：　エデュケーター認定は，申請者数 100 名の予想を上回り 128 名の申請があった．

6）管理費：　会議のほとんどをオンラインミーティングに変更したため旅費および会議費が減少した．

2．令和 3 年度予算案編成の件

令和3年度の予算は,新型コロナウイルスが大きく影響した令和2年度決算見込額ではなく,通常年の決算額を参考とし,下記の点を考慮して編成した．

・国際交流を積極的に進めるために国際連携費用を増額した．

・薬理教育フォーラム Web サイト構築のスタートアップ費用として 200 万円を計上した．

・部会開催は，前年度の決定に従い，学会補助金を 1 開催当たり 30 万円から 20 万円に減額した．

・学会事務局は，全面外部委託を中止し，独自で運営する．

以上により，委員会は収入を約 1 億 2,603 万円，支出を約 1 億 3,435 万円，収支差額を約 832 万円の赤字とする令和 3 年度収支予算案を理事会に提案した．

3．日本薬理学会財務状況について

・公益社団法人移行の平成 24 年度から令和 2 年度まで 9 年間の一般経常収支と一般正味財産の年次推移をグラフ化し，収入・支出ともに漸減しつつも収支均衡が保たれていることを確認した．

・公益社団法人として公益事業の収支相償に努め，管理費が必要以上の黒字となった場合は，基金に一部を繰り入れて事業の経費に充てる会計方針である．

4．その他検討事項等

・薬理教育フォーラム Web サイトを，臨床現場で薬剤を用いる医師・薬剤師・看護師に向けたコンテンツにも拡張する検討を企画委員会に提案することを決定した．

・年会等の学術集会では，プログラムを充実させ，本会への入会につながる方策を進める．

・事務局体制や学術集会企画の充実を含む学会強化に向けた中長期的な方策を打ち出し，年会の黒字額をそれらの方策に充当する第 93 回年会長の意向を確認し，理事会に提案した．

研究推進委員会報告

委員長：石川 智久

委　員：赤羽 悟美，小原祐太郎，諫田 泰成，小林 真之，高井 真司，津田　誠，戸村 裕一，成田　年，西山 成

本年度は委員会を 2 回開催した．

1．「医学と医療における日本の薬理学の貢献　日本薬理学会へのいざない（平成 20 年版）」の改訂について

前回のパンフレット発行から 10 年以上が経過したことから，パンフレットの改訂について議論し，以下の方針で新たなパンフレットを作成することとした．

・読者の対象を，薬理学を学ぶ入り口の学生にする．

・前回版の項目を基にしつつ，項目の変更・削除・追加などの改訂を行う．

・「日本」にこだわらず，薬理学全般のトピックスを扱う．

・全体のページを大きく増やすことなく（Max 20 頁程度），詳細や発展的な内容を含めたい場合は QR コードを示してリンク先で閲覧できるようにする．

・前回の版はアーカイブとして残し，イラストを含めて大きく改訂する．

・電子版を基本とする．

・2021 年発行を目指す．

新パンフレットの項目について議論し，項目及び各項目の原稿を担当する委員を決定した．
新パンフレットの項目は以下の通り．

はじめに：くすりと薬理学（1 頁）
01　くすりが作用するターゲット（2 頁）
02　多様化するくすり（1 頁）
03　脳に働くくすり（2 頁）
04　痛みを和らげるくすり（1 頁）
05　感染を抑えるくすり（1 頁）
06　免疫機能を改善するくすり（1 頁）
07　がんを抑えるくすり（2 頁）
08　血圧を下げるくすり（1 頁）
09　心臓の働きを助けるくすり（1 頁）
10　血液の脂質やコレステロールを下げるくすり（1 頁）
11　血糖値を下げるくすり（1 頁）
12　呼吸を楽にするくすり（1 頁）
13　胃の痛みを和らげるくすり（1 頁）
14　新たなくすりの開発に向けて（1 頁）
おわりに：薬理学は医療に必須な総合ライフサイエンス（1 頁）

2. 次世代の会との連携について
今年度から次世代の会主催の次世代薬理学セミナーの担当は企画教育委員会となったが，引き続き，次世代の会と連携して活動をサポートするということで合意した．また，次世代の会の今後について意見交換を行った．

編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief)：小泉 修一
委員(JPS Section Editors)　：岩本 隆宏，大野 行弘，諫田　泰成，東田 千尋，中川 貴之
(JPS Associate Editors)：原　英彰，黒川 洵子，三澤日出巳，山田 清文，山村 寿男，若森 実

Ⅰ．JPS 投稿・審査状況（投稿数，採択率，Impact Factor）（2021年1月3日現在）

1. 受付論文数

1）推移（2017-2021）

年	2017	2018	2019	2020	2021
Submitted	348	525	603	825	6
Rejected	180	287	344	592	0
Accepted	108	137	127	110	0
Withdrawn etc	32	47	50	190	1
Publications	95	143	129	119	1

2）国別（2020）

年・国	中国	日本	India	Iran	Korea	Egypt	Saudi A	Nigeria	Italy	USA
2019	371	107	16	11	7	5	3	4	3	5
2020	508	90	36	21	18	16	15	11	9	9

3）Section別Accept/Reject論文数（2020）

Section	Status	Number
Anticancer drug/Toxicology	Accepted	2
	Rejected	54
Biopharmaceutical/Clinical Pharmacology	Accepted	4
	Rejected	51
Cardiovascular pharmacology and pharmacology in other systems	Accepted	15
	Rejected	108
Natural and herb medicine	Accepted	5
	Rejected	73
Neuropharmacology	Accepted	17
	Rejected	52
Section 導入以前	Accepted	67
	Rejected	254
Total		702

2. 採択率（投稿年別）

2009 年 47%, 2010 年 49%, 2011 年 50%, 2012 年 50%, 2013 年 48%, 2014 年 42%,
2015 年 32%, 2016 年 34%, 2017 年 34%, 2018 年 25%, 2019 年 27%, 2020 年 16%

Top 10の採択状況

国	中国	日本	India	Iran	Korea	Egypt	Saudi A	Nigeria	Italy	USA
Submitted	508	90	36	21	18	16	15	11	9	9
Accepted	30	58	1	1	4	2	0	1	3	1

3. Impact Factor （Journal Citation Report JCR® 発表）

2008 年：2.599, 2009 年：2.176, 2010 年：2.260, 2011 年：2.082, 2012 年：2.150,
2013 年：2.114, 2014 年：2.360, 2015 年：2.106, 2016 年：2.415
2017 年：2.575, 2018 年：2.439, 2019 年：2.835（自然科学系 270 誌中 123 位）

Ⅱ. JPS 刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

Ⅲ. JPS 審議・決定，報告事項

1. 編集体制について

国内編集委員（12名）

小泉 修一，岩本 隆宏，大野 行弘，諫田 泰成，東田 千尋，中川 貴之，原 英彰，黒川 洵子，三澤 日出巳，
山田 清文，山村 寿男，若森 実

海外編集委員（8名）

Andrew John Lawrence (-2020.12.31), Tangui Nicolas Maurice, Peter Tsun-Hon Wong, Qiang Xu, Shenuarin Bhuiyan,
Feng Han, Naoki Yoshimura, Frank A. Redegeld

2. JPS 優秀論文賞について

JPS優秀論文賞規定およびJPS優秀論文賞受賞論文選考規定に従って,2017年度から2019年度掲載分の原著論文の中から,
第25回JPS優秀論文賞受賞論文1編を決定した.

・A novel JAK inhibitor, peficitinib, demonstrates potent efficacy in a rat adjuvant-induced arthritis model
Misato Ito, Shunji Yamazaki, Kaoru Yamagami, Masako Kuno, Yoshiaki Morita, Kenji Okuma,
Koji Nakamura, Noboru Chida, Masamichi Inami, Takayuki Inoue, Shohei Shirakami,
Yasuyuki Higashi
Volume 133, Issue 1, 25-33 (2017)

3. JPS優秀査読者賞について

JPS優秀査読者賞規定およびJPS 優秀査読者選考規定に従って，2020年度JPS優秀査読者3名を決定した.

・Naoki Inagaki (Gifu University of Medical Science)
・Atsushi Kasai (Osaka University)
・Akira Nishiyama (Kagawa University)

4. 国際情報発信強化の取組みについて（IF強化の取り組み）

(1) Special Issueの強化
・奨励賞受賞者のreview（2021年3月），
・江橋賞受賞者review（2021年度中）
・JPS企画シンポジウム review（2021年度中）

(2) 広告活動
・Nature日本版への広告（日本からの投稿の開拓）

(3) 各種国際学会における展示，ブース等を通じた，ロビー活動（企画中）

(4) JPS編集の強化・正常化
・SE制の導入（5セクション制は導入済み．さらなるセクションを検討中）
・投稿料の徴収等（検討中）

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：金子 周司

委　員：吾郷由希夫，石井 邦明，石澤 啓介，大矢　進，甲斐 広文，木内 祐二，吉川 公平，武田 泰生，辻　稔，中川 貴之，矢部 千尋

2020年より新たな任期となり，第1回目の広報委員会を2020年5月29日にZoomミーティングにより開催した．その後必要に応じてメーリングリストを活用したメール会議を行った．

1. 日本薬理学雑誌の刊行について

前年度広報委員会にて決定した編集方針により，2020年より以下の変更を行った．

- 奇数月の隔月発行とした．
- J-STAGEを公式版と位置づけ，オンラインではカラー図や補足図を掲載することとした．また，これまで一律に公開から半年間の閲覧制限を設けていたが，会員には購読者番号とPWを配布して公開日から全文PDFをダウンロードできるようにした（非会員は1年間のアクセス制限）．
- 「新薬紹介総説」欄をオープンアクセス化（CC-BY）し，2次利用を行いやすいようにした．
- 誌面レイアウトを刷新した．

なお，発行回数は年12回から年6回と半分になったが，1号あたりのボリューム数は以前よりも増やす編集方針とし，2020年の掲載記事・論文数は前年の7割を維持した．

2. ホームページの全面改訂と維持体制の変更

学会ホームページを2020年4月に全面改訂した．また，委託業者4社が関わっていたホームページの維持体制を1社に集約した．

日本薬理学雑誌のページでは，目次の各記事タイトルより，それぞれのJ-STAGE公開ページへのリンクを設定し，オンライン版へのアクセスを容易にした．

企画教育委員会報告

委員長：南 雅文

委　員：池谷 裕二，石毛久美子，上園 保仁，上原 孝，谷村 明彦，古屋敷智之，宮田 篤郎，柳田 俊彦，山田 清文

委員会をZoomミーティングにより3回開催し，所管事項について検討を行った．

1. 新学術評議員選考の件

新学術評議員選考規定に基づき，学術評議員申請の審査を行った．通常の申請分については，申請者全員が，会員歴および業績の基準を満たすことから19名の申請者全員を新しく学術評議員とすることとした．一方，特例措置での申請分のうち4名については，新学術評議員選考規定第6条の特例となる要件を満たさないことから会員歴5年を満たした際に再度申請していただくこととし，残りの申請者8名は第6条の基準を満たしているため新しく学術評議員とすることとした．以上の審査結果により27名を理事会に上申することとした．

2. 薬理学エデュケーター選考の件

各委員による事前審査結果に基づき，2020 年度の薬理学エデュケーター申請の審査を行った．経過措置での申請 103 件，経過措置なしでの申請25件，全件について，基準を満たしているため，薬理学エデュケーターとして認定することを理事会に上申することとした．同候補者について理事会に諮ったところ，全128名の認定が承認され，ホームページに認定者一覧を掲載した．令和3年1月に発効する薬理学エデュケーター認定証を送付した．

3. 生理学会との合同アンケート調査の件

日本生理学会と連携し，COVID-19 に対する各大学の対応と生理学及び薬理学教育への影響に関する緊急合同調査について，アンケート調査を行った．アンケート調査結果については，ホームページおよびJPS Online上で公開し，第94回年会でのシンポジウムで報告するなど積極的に活用することとした．

4. 部会の開催方法とエデュケーターポイント付与の件

春の関東部会と近畿部会，及び，秋の各部会がWEB開催あるいはWEBとオンサイトでのハイブリッド開催となった場合のエデュケーターポイント付与の方法について検討した．参加確認については，WEBページ内に申請フォームを設けるか，WEB会議参加のログを利用する方法を認めることとした．参加確認方法については，より効率的かつ実態に即した方法を引き続き検討していくこととした．

5. 次世代の会新規約と次世代薬理学セミナーの件

「次世代の会新規約」について，次世代の会の小山代表より，検討の経緯が説明され，新規約が提案された．審議の結

果，「次世代の会新規約」を理事会に上申し，理事会の承認が得られたため，会員宛一斉メールで次世代の会参加を呼びかけた．次世代薬理学セミナーについては，これまで,部会参加者しか聴講できなかったが，WEB とオンサイトのハイブリッド開催とし,薬理学会員全員が無料で視聴できるようにすることについて議論が行われ,その方向で進めるべきとの結論となった．ハイブリッド開催となる第 71 回北部会で試験的に行い,技術的な課題を洗い出すとともに,必要な経費を明らかにしたのちに再度審議することとした．

6.ダイバーシティ推進セミナーの件

第 94 回薬理学会年会でのダイバーシティ推進セミナーについて，石毛委員から企画案の説明があり了承された．アンケートについては Google Form などの WEB 経由の方法で行うこととした．当該セミナーはランチョンセミナーとして企画されているが，Remote の参加者を増やすために方策が必要であるとの意見があり，アンケートに回答したセミナー参加者に調査協力への返礼を検討した．

7.看護薬理学カンファレンスの件

柳田委員より，2020 年の看護薬理学カンファレンス２件（熊本と東京）の開催報告があった．2021 年は，第 94 回年会と第 140 回近畿部会にあわせて開催予定であり，直近の看護薬理学カンファレンス 2021 in 札幌（大会長：谷村明彦 委員）の内容が説明された．2022 年度は第 95 回年会および第 96 回年会にあわせて開催する計画である．

本カンファレンスは年２回開催を基本としているが，上記計画に加え，2021 年度は第 42 回日本臨床薬理学会学術総会にあわせて仙台においても開催すること,2022 年度は第 75 回西南部会にあわせて高知においても開催すること,また，看護薬理学カンファレンスの参加者にエデュケーターポイントを付与することについても検討がなされ,いずれも理事会に上申することを決定した．

8.第 94 回年会におけるシンポジウム提案の件（報告事項）

次世代の会の小山代表より，次世代の会から，第 94 回年会シンポジウムに２件のシンポジウムを提案したこと，柳田委員より，第 94 回年会シンポジウムに１件のシンポジウムを提案したことが報告された．

賞等選考委員会報告

委員長：五嶋 良郎

委　員：石川 智久，杉浦 麗子，筒井 正人，戸村 裕一，西　昭徳，西堀 正洋，若森　実，山田 清文

委員会を 1 回開催し，以下について審議した．

1. 第 36 回（令和 3 年度）学術奨励賞

受賞候補者の選考について「賞等選考委員会規定」,「学術奨励賞規定」,「学術奨励賞受賞者選考規定」を確認した．推薦者の評価方法，基本方針について議論，一致，確認した．次いで，候補者 12 名の推薦書について,「薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に対し授与する」(学術奨励賞規定第 2 条から抜粋)に基づく観点を踏まえ，事前に全委員が審査した評価をもとに，本委員会ではそれらを多角的に検討した．その際，本賞の趣旨，特に，学術奨励賞規定にある「研究業績はその主要な部分が日本国内で行われたものに限る」こと，および,「薬理学会への貢献度」を考慮し，以下の評価上位 3 名，川畑伊知郎氏，菊田順一氏，野村洋氏を受賞候補者とすることを決定した．これを第 36 回（令和 3 年度）学術奨励賞の受賞候補者として，選考の経過とともに理事長に答申した．

各々の候補者名，ならびに研究課題は，以下のとおりである．

川畑伊知郎（東北大学大学院・薬学研究科・特任准教授）
『パーキンソン病の新たな創薬標的の解明とその予防・治療応用研究』

菊田 順一（大阪大学大学院・医学系研究科・准教授）
『生体イメージングによる骨疾患治療薬の in vivo 薬理作用の解明』

野村　洋（北海道大学大学院・薬学研究院・講師）
『記憶・学習を司る神経回路機構および認知機能障害に対する創薬に関する研究』

2.各種助成団体等への本会としての推薦

・第 61 回東レ科学技術研究助成：2 名を学会推薦
・第 11 回日本学術振興会 育志賞：1 名を学会推薦

年会学術企画委員会報告

委員長：戸村 裕一
委　員：池谷 裕二，石毛久美子，吉川 公平，五嶋 良郎，高橋 禎介，西山　成，若森　実
オブザーバー：吉岡 充弘（第94回年会長），宮田 篤郎（第95回年会長），南　雅文（第94回副年会長）

Zoomによる2回のオンライン委員会開催とメーリングリストを利用した議論を実施し,以下の件について報告･審議した.

第93回年会について

五嶋年会長より「基礎と臨床の双方向の発展」というコンセプトのもと誌上開催された第93回年会について終了報告がなされた.

第94回年会について

1.吉岡年会長より,企画案が説明され,提示されたとおりに了承された.年会のテーマは「ワクワクする薬理学の未来 -The Exciting Future of Pharmacology -」とし，新たな年会の方向性を示す実験的年会として位置付ける方針である.
- 予定プログラムは特別講演，年会企画シンポジウム，企業企画シンポジウム，公募シンポジウム・ワークショップ，一般演題（口演・ポスター），江橋節郎賞受賞講演，学術奨励賞受賞講演，共催シンポジウム，テクニカルプレゼンテーション，創薬オープンイノベーション，ランチョンセミナー・企画展示になる.
- 対面式+WEB配信のDual system（Hybrid）を試験的に導入し開催する.
- 例年通りの懇親会は実施せず，初日，2日目夕刻にポスターディスカッション時に会場でのアルコール・軽食等を提供する方針.

2.年会学術企画委員会より特別講演，教育講演およびシンポジウムとして，以下の3テーマが企画された.
- 特別講演：オープンイノベーションに対する製薬協の取組み
  上野 裕明 先生（田辺三菱製薬株式会社）
- 特別講演：ライフサイエンス分野でのAIとビッグデータの活用（仮）
  奥野 恭史 先生（京都大学ビックデータ医科学分野）
- 教育講演（企業枠）：急性骨髄性白血病に対する新規FLT3阻害薬ギルテリチニブの創薬
  黒光 貞夫 先生（アステラス製薬株式会社）

3.公募シンポジウムについては応募された27件に対し，委員会でオブザーバーを交えて，学術的なレベル，新規性，話題性，分野の偏りや重複など様々な角度から審議し，採否を決定した.
- 応募内訳は一般会員からの演題20件，委員会企画5件（企画教育委員会3件，編集委員会1件，年会学術企画委員会1件），看護学教育モデル・コア・カリキュラム１件，毒性学会共催1件.
- 重複感があるシンポジウムについてオーガナイザーおよびシンポジストへ調整を依頼しご承諾いただいたことで26件を採択した.
- 新企画として，関心の高かった「With/afterコロナ時代の新たな薬理学教育」というトピックについて学会企画と公募シンポジウムを合体させた下記拡大合同シンポジウムが提案され，了承された.

  拡大合同シンポジウム：With/afterコロナ時代の新たな薬理学教育
  With/afterコロナ時代の新たな薬理学教育I：遠隔教育の実践と課題
  生理学会との合同アンケートより
  オンデマンド型授業の実践と課題
  オンラインによる薬理学実習の実践と課題
  オンライン薬理学ロールプレイの実践と課題
  With/afterコロナ時代の新たな薬理学教育II：薬理学会と他学会の取り組み
  今後の薬理学教育への学会の取り組みに向けた提言
  エデュケーター制度について
  今後の生理学教育への学会の取り組みに向けた提言
  日本循環器学会の取り組み
  パネルディスカッション
- ワークショップの応募はなかったが，追加募集や企画は実施しない方針とした.
- シンポジウムはリアルタイムで同時配信し,合わせて学会期間中はオンデマンド視聴も可能にすることで参加者の利便性を上げる方針.

4.企業企画シンポジウム4演題が提案・審議され，学会員の興味も高いトピックであることから採択することとなった.
- アカデミア発イノベーションの実用化に向けて
- COVID-19治療薬 ドラッグリポジショニングの現状について
- 腎疾患治療薬開発の現状について
- 血液腫瘍の最新治療の現状について

江橋賞選考委員会報告

委員長：赤池 昭紀
委　員：大隅 典子，栗原　 敏，祖父江 元，米田 悦啓，和田 圭司（以上学会外委員）
　　赤羽 悟美，今泉 祐治，中谷 晴昭，吉岡 充弘

第 14 回江橋賞候補者選定のための委員会を 10 月 30 日に Zoom ミーティングにより開催した.

1. 第 14 回江橋節郎賞候補者選考経過について
   ・第 14 回江橋節郎賞の候補者は 3 名であった.
   ・委員長を除く委員 9 名で，各候補者の研究を「独創性」,「世界から見た位置づけ」,「当該分野に与えた影響度」,「研究の流れ・今後の発展性」の 4 項目と，学会内委員は「薬理学への貢献」を加えた 5 項目で，それぞれを 10 点満点とする事前評価を行い，その結果は選考の参考とすることとした.
   ・学会内委員による各候補者紹介の後，評価項目について意見交換を行った.
   ・候補者の決定は投票によることとし，意見交換の後，委員長を除く出席者 9 名で無記名投票を行い，投票数の 3 分の 2 以上を獲得した西堀 正洋氏を，第 14 回江橋節郎賞受賞候補者として理事長に推薦することを決定した.
   　候補者の研究テーマ：『炎症病態をターゲットとしたトランスレーショナルリサーチと創薬』

2. 受賞候補者の研究について
   西堀候補は，種々の疾患病態には未解明の炎症反応過程が存在することを種々のモデル動物で実証してきた．また，クロマチン DNA 結合 HMGB1 を標的とするモノクローン抗体治療が難治性中枢神経疾患や炎症性病態に有効であること，さらに HMGB1 と相互作用する血漿 HRG が，敗血症の病態生理を理解する上での必須の存在であることを明らかにした．これら研究成果の臨床応用に向けたトランスレーショナルリサーチを展開し，分子レベルから個体レベルに至る炎症薬理学領域のトランスレーショナル創薬研究において高い成果をあげた．敗血症を抑制する作用のある HRG の受容体を同定し，敗血症の早期診断法と新規治療法を提案し，臨床応用に向けた研究を精力的に展開する等研究を発展させている．

3. 江橋賞候補者の募集について
   IF や CI 等の学術論文の指標では十分に評価できないが，これまでの受賞研究と優劣つけがたい研究分野からも候補者を選出できるよう，公告に際してテーマを設け，第 14 回は『トランスレーショナルリサーチ・応用』の領域から募集を行った．次年度は基礎の分野で募集を行うことが予定されている．

4. 委員の任期満了について
   第 14 回の選考をもって外部委員 2 名と委員長を含む学会内委員 2 名が 4 年の任期を満了する．次回は，新委員長のもとで選考を行う.

国際対応委員会報告

委員長：金井 好克
委　員：吉岡 充弘（副委員長），安西 尚彦，甲斐 広文，黒川 洵子，廣瀬 謙造，古屋敷智之
顧　問：飯野 正光，三品 昌美
オブザーバー：小泉 修一（編集委員長）

2020 年 7 月 11 日に委員会（Zoom 会議）を開催した他，随時メールによる審議を行った.

1. COVID-19 に関する緊急対応として，ASCEPT，BPS との連携で，COVID-19 治療探索における臨床薬理学的研究に関するリコメンデーションの策定に日本臨床薬理学会とともに加わった（Br J Clin Pharmacol の Editorial として出版 DOI: 10.1111/bcp.14416）.

2. 国際対応アソシエイツの立ち上げ．本委員会の重要な役割の一つである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づき，会員との連携推進の一環として，国際交流のさらなる充実・拡充を図り，また国際交流イベント等への参画を促進することを目的として「国際対応アソシエイツ」を立ち上げた.
   国際対応アソシエイツ：国際交流に関する会員の連絡会．国際対応委員会と連携し，イベント等の企画，立案，実施へ参画．必要に応じて国際対応委員会にオブザーバーとして参加.

3. 第 8 回日中薬理学・臨床薬理学シンポジウム．第 94 回日本薬理学会年会（吉岡年会長，札幌）において，日中合同シンポジウム（3 月 10 日 13:30～17:00）として開催.

4. ASCEPT との交流では，第 94 回日本薬理学会年会へ，ASCEPT から Dr. Denise Wootten（Monash 大学）を講師として招聘.

5. ASPET との講師交換プログラムとして，金井好克教授（大阪大学）を EB2021（2021 年 4 月 27 日～30 日）へ派遣（Web 開催となる予定）.

6. 第23回日韓薬理合同セミナー. 2021年6月24日～26日に韓国の大邱で開催の予定.

7. 第14回APFP会議（APFP 2021）が，2021年7月11日～14日に台北市（台湾）で開催される．日本から10名の招待講演者が選出されている．

8. WCP2022（2022年7月17日～22日；Glasgow UK）の公募シンポジウムへ，本委員会を中心に３件応募.

9. IUPHAR対応：IUPHARでは，理事会構成の大きな変更をともなう組織改編が進められており，日本学術会議IUPHAR分科会と連携しながら新たな体制に対応していく．

【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事：矢部 千尋

第94回年会におけるダイバーシティ推進企画について

第92回年会のダイバーシティ企画シンポジウムに関するアンケートにおいて複数の会員から要望のあった「世代間の意識格差の問題」について，昨年度石毛理事により「ライフワークバランスに対する世代間格差」というランチョンセミナーが企画されていた．本テーマはあらゆる年代の薬理学会会員に共通する課題であることから，第94回年会においてもPart2として開催する．本セミナーでは4名の研究者に日頃感じていることをご紹介いただき，参加者とともに異なる年代の多様な意識と考え方を共有し，広く人材育成に資する機会とする．

【次世代の会活動報告】

代表：小山 隆太（関東部会）

委員：北 部 会：長沼 史登，野村 洋

関東部会：井手聡一郎，大久保洋平，小菅 康弘，林 良憲，藤田 智史，溝口 尚子，宮川 和也，村田 幸久

近畿部会：衣斐 大祐，大垣 隆一，白川 久志，鈴木 良明，タムケオ ディーン，橋川 成美

西南部会：清水 孝洋，矢吹 悌，山下 智大

COVID-19の影響もあり，2020年は随時メール会議を行った．

1. 次世代の会「ワーキンググループメンバー」を決定した．ワーキンググループメンバーは以下の通り．

新制度担当WG

リーダー：小山（代表直属WGとする）

メンバー：長沼，大久保，溝口，宮川，鈴木，橋川，矢吹

次世代薬理学セミナー担当WG

メンバー：白川（近畿部会オーガナイザー），野村（北部会オーガナイザー）

年会企画担当WG

リーダー：大垣

メンバー：小菅，村田，衣斐，タムケオ，山下

ホームページ担当WG

リーダー：清水

メンバー：井出，林

2. 「次世代薬理学セミナー」を第71回北部会において併催した．

次世代薬理学セミナー 2020 in 仙台＆オンライン

「こころと精神疾患を理解するための次世代アプローチ」 オーガナイザー：野村 洋（北海道大学）

3. 第137回近畿部会と同時開催する予定であった次世代薬理学セミナーは，第139回近畿部会との同時開催に延期した（オーガナイザー白川久志）.

4. 次世代薬理学セミナーへの参加も薬理学エデュケーターポイント対象になることが決定した.

5. 次世代の会新制度に関して，理事会より承認を受けた．これに則り，次世代の会運営委員および会員の募集について告知を行った．2021年4月に複数名の新運営委員が就任予定である．今後も毎年度運営委員を募集し，次世代の会の新陳代謝を促進する.

6. 引き続き次世代の会ホームページ（http://angesjps.umin.jp)にて活動実績等を紹介している.

XI. 2021年度新学術評議員申請者一覧（27名）

※五十音順

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
1	飯村　忠浩	北海道大学大学院歯学研究院 薬理学 教授	5	骨・歯科薬理	127（66）	3	0	吉村　義隆
2	泉尾　直孝	富山大学学術研究部 薬学・和漢系（薬学） 助教	11	中枢神経薬理	22（18）	7	0	新田　淳美
3	臼井　達哉	東京農工大学 獣医薬理学 特任講師	12	化学療法	38（32）	13	4	山脇　英之
4	歌　　大介	富山大学学術研究部 薬学・和漢系　応用薬理学 准教授	7	中枢神経薬理	60（60）	17	0	久米　利明
5	遠藤　京子	名古屋市立大学大学院医学研究科 薬理学 助教	6	受容体・チャネル・輸送系	7（7）	12	1	大矢　　進
6	大野　雄太	朝日大学歯学部 歯科薬理学 助教	6	その他（外分泌薬理）	26（26）	11	2	柏俣　正典
7	柏原　俊英	北里大学薬学部 分子薬理学 講師	16	心血管薬理	27（25）	30	2	中原　　努
8	菊田　順一	大阪大学大学院医学系研究科 免疫細胞生物学 准教授	11	免疫薬理・炎症	62（54）	5	2	石井　　優
9	佐藤　正晃	北海道大学大学院医学研究院 神経薬理学 講師	6	中枢神経薬理	26（22）	5	0	吉岡　充弘
10	須田　雪明	星薬科大学 薬理学 助教	10	中枢神経薬理	7（7）	17	0	成田　　年
11	周藤　俊樹	大塚製薬株式会社 取締役 研究部門 兼 知的財産担当	26	心血管薬理	51（27）	10	0	菊地　哲朗
12	竹内　雄一	大阪市立大学大学院医学研究科 神経生理学 特任講師	16	中枢神経薬理	22（20）	5	1	大澤　匡弘
13	濱野　裕章	徳島大学病院 薬剤師	6	臨床薬理	18（5）	3	0	石澤　啓介
14	韓　　大健	日本イーライリリー株式会社 研究開発本部　バイオ医薬品領域本部 メディカルアフェアーズプロフェッショナル	31	中枢神経薬理	11（0）	10	0	間宮　隆吉
15	前畑洋次郎	ナカエ歯科クリニック　副院長 神奈川歯科大学　特任講師	16	骨・歯科薬理	44（39）	5	2	李　　昌一

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
16	水野　夏実	北海道医療大学薬学部 薬理学 講師	8	免疫薬理・炎症	23（21）	11	0	栁川　芳毅
17	溝口　尚子	明海大学歯学部 専任講師	6	中枢神経薬理	15（15）	3	0	藤田　智史
18	山口　雄大	大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態薬理学 助教	6	心血管薬理	22（20）	4	6	冨田　修平
19	吉原　達也	(医)相生会 福岡みらい病院 臨床研究センター 医師	13	臨床薬理	24（24）	9	4	高橋 富美

特例措置

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
20	江藤　浩之	京都大学 iPS 細胞研究所・教授 千葉大学大学院医学研究院 教授（クロスアポイント）	1	心血管薬理	103（98）	2	0	安西　尚彦
21	金谷　泰宏	東海大学医学部 臨床薬理学 教授	3	臨床薬理	107（65）	2	0	小林　広幸
22	川辺　浩志	群馬大学大学院医学系研究科 薬理学 教授	1	中枢神経薬理	49（45）	0	0	白尾　智明
23	工藤　保誠	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔生命科学 教授	2	生化学薬理	127（106）	1	0	石澤　有紀
24	下田　和孝	獨協医科大学 精神神経医学 主任教授	2	中枢神経薬理	519（62）	2	0	安西　尚彦
25	中山　　恒	旭川医科大学医学部 薬理学 教授	1	細胞内情報伝達	24（18）	2	0	黒川　洵子
26	橋本　謙二	千葉大学 社会精神保健教育研究センター 教授・副センター長	1	中枢神経薬理	500（450）	0	2	安西　尚彦
27	真鍋　一郎	千葉大学大学院医学研究院 教授	1	心血管薬理	381（128）	4	1	安西　尚彦

Ⅻ. 日本薬理学会「薬理学エデュケーター」認定者名簿（128名／五十音順）

（認定期間：令和3年1月1日～令和7年12月31日）

青木　友浩	国立循環器病研究センター研究所	國澤　直史	大阪薬科大学
安達　一典	明海大学	熊井　俊夫	聖マリアンナ医科大学
荒木　良太	摂南大学	黒川　洵子	静岡県立大学
淡路　健雄	埼玉医科大学	合田　光寛	徳島大学
安西　尚彦	千葉大学	輿水　崇鏡	自治医科大学
池田　哲朗	青森大学	齊藤　秀俊	九州大学
石井　邦明	山形大学	齋藤　　僚	(一財)脳神経疾患研究所
伊東　洋行	アステラス製薬(株)	酒井　大樹	山口大学
岩佐　健介	埼玉医科大学	坂上　　宏	明海大学
海野　年弘	岐阜大学	櫻田　　忍	東北医科薬科大学
及川　弘崇	鈴鹿医療科学大学	笹岡　利安	富山大学
大内　基司	獨協医科大学	佐藤　　薫	国立医薬品食品衛生研究所
大澤　匡弘	名古屋市立大学	佐藤　洋美	千葉大学
大谷　直由	大分大学	座間味義人	徳島大学
大野　行弘	大阪薬科大学	沢村　達也	信州大学
大橋　若奈	慶應義塾大学	塩田　倫史	熊本大学
岡﨑　真理	城西大学	柴田　和彦	松山大学
尾中　勇祐	摂南大学	清水　佐紀	大阪薬科大学
小野　景義	帝京大学	白石　成二	呉医療センター中国がんセンター
尾花　理徳	大阪大学	杉浦　麗子	近畿大学
戒能　美枝	東レ(株)	鈴木　宏昌	東京医科大学
笠井　淳司	大阪大学	関　健二郎	奥羽大学
笠原　二郎	徳島大学	高栗　　郷	北海道科学大学
柏俣　正典	朝日大学	高崎　一朗	富山大学
片岡　智哉	名古屋市立大学	高田芙友子	福岡大学
香月　博志	熊本大学	髙見　正道	昭和大学
加藤　伸一	京都薬科大学	武　　洲	九州大学
加藤　幸成	東北大学	竹内　　弘	九州歯科大学
金子　雅幸	長崎大学	武智　研志	松山大学
金田　勝幸	金沢大学	田嶋　公人	城西国際大学
兼松　　隆	九州大学	田中　徹也	中国学園大学
亀井　淳三	星薬科大学	田中　基晴	常磐大学
川瀬　知之	新潟大学	棚橋　靖行	京都産業大学
川田　浩一	千葉科学大学	田辺　光男	北里大学
神林　隆一	東邦大学	津田　　誠	九州大学
神戸　悠輝	鹿児島大学	土屋浩一郎	徳島大学
北澤多喜雄	酪農学園大学	坪田　真帆	近畿大学
北村　佳久	就実大学	出山　諭司	金沢大学
北山　友也	武庫川女子大学	寺田　侑加	神戸学院大学
京谷　陽司	奈良県立医科大学	中澤　敬信	東京農業大学

仲澤　幹雄	
永嶋　義直	花王(株)
中本賀寿夫	神戸学院大学
西奥　　剛	長崎国際大学
西川　裕之	扶桑薬品工業(株)
西本　裕樹	日本大学
根本　　亙	東北医科薬科大学
野口　和雄	武庫川女子大学
野澤　玲子	明治薬科大学
野田　幸裕	名城大学
八田　光世	福岡歯科大学
濵村　和紀	愛知学院大学
早田　敦子	大阪大学
原(野上)愛	就実大学
東　洋一郎	高知大学
肱岡　雅宣	立命館大学
藤田　隆司	立命館大学
藤田　佳子	信州大学
堀田　祐志	名古屋市立大学
堀　　正敏	東京大学
堀江　俊治	城西国際大学
馬嶋　正隆	神奈川工科大学
増川　太輝	横浜市立大学
松岡　信也	京都大学
松崎英津子	福岡歯科大学
松田　貴久	アレクシオンファーマ(株)
松田　直之	名古屋大学
松本　康弘	ワタナベ薬局上宮永店
丸　　義朗	東京女子医科大学
三明淳一朗	鳥取大学
三浦　大作	兵庫医療大学
三上　義礼	東邦大学
三坂　眞元	福島県立医科大学
溝口　広一	東北医科薬科大学
宮本　　篤	鹿児島大学
村上　慎吾	中央大学
村瀬　真一	国際医療福祉大学
村山　　尚	順天堂大学
森　　麻美	帝京大学
森　　寿	富山大学
矢沢　和人	群馬県
山下　直也	順天堂大学
山本　清文	日本大学
山本(河井)まりこ	関西女子短期大学
吉川　圭介	埼玉医科大学
善積　　克	東北医科薬科大学
和久田浩一	大分大学
渡辺千寿子	東北医科薬科大学

第 36 回日本薬理学会学術奨励賞受賞者

（五十音順）

川畑伊知郎　（東北大学大学院・薬学研究科・特任准教授）
『パーキンソン病の新たな創薬標的の解明とその予防・治療応用研究』

菊田　順一（大阪大学大学院・医学系研究科・准教授）
『生体イメージングによる骨疾患治療薬の in vivo 薬理作用の解明』

野村　　洋（北海道大学大学院・薬学研究院・講師）
『記憶・学習を司る神経回路機構および認知機能障害に対する創薬に関する研究』